BOOK NEWS from MARUZEN-YUSHODO

2025.09.04 作成

2025 年 8 月新聞書評に掲載された本

行先は未定です

谷川俊太郎 著
朝日新聞出版
ぽつりとおかしく、ぽつりと鋭く。谷川俊太郎が置いていった言葉たち。「答えのない人生」を生きた詩人の言葉と詩を収録する。『朝日新聞』(デジタル版も含む)掲載を加筆。朗読動画の視聴用 QR コード(図書館利用可)付き。

産経新聞 2025/08/03

2025:7./ 211p
978-4-02-252058-6
¥1,980〔税込〕

自由<上>

アンゲラ・メルケル 著
KADOKAWA
16 年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一されたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

産経新聞 2025/08/03

2025:5./ 416p
978-4-04-113632-4
¥2,750〔税込〕

自由<下>

アンゲラ・メルケル 著
KADOKAWA
16 年にわたりドイツ政府の首長として責任を担い、その行動と態度で、ドイツ、ヨーロッパ、世界の政治をリードしてきたアンゲラ・メルケル。旧東ドイツと再統一されたドイツ、ふたつの国家における自身の半生を振り返る。

産経新聞 2025/08/03

2025:5./ 408p
978-4-04-113633-1
¥2,750〔税込〕

ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲル画家ゴッホを世界に広めた女性

ハンス ライテン 著
ＮＨＫ出版
フィンセント・ファン・ゴッホの義妹ヨー。膨大なゴッホ作品を受け継ぎ、作品の普及に生涯を捧げ、世界各地での展覧会の開催、有力な画商や顧客に対する戦略的販売など男性優位の美術市場を切り拓いた彼女の生涯を追う。

産経新聞 2025/08/03

2025:6./ 636p 図版 48p
978-4-14-081992-0
¥5,940〔税込〕

●ご注文の際には，タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
●原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
●ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
●表示価格は 2025 年 8 月時点での税込み価格です。

MARUZEN-YUSHODO
丸善雄松堂株式会社 ［学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部］
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 東京ダイヤビルディング 5 号館 10 階
URL kw.maruzen.co.jp Email: marketing@maruzen.co.jp

誓いの簪

天羽恵 著
徳間書店
命を狙われ、江戸まで逃れてきたおりんは、錺職人を目指すお園の暮らす長屋に住み始める。束の間の幸せに浸るおりんだが、お園が狙われる。おりんは隣人である武士の佐伯とともに、お園の周囲に目を光らせるが…。

産経新聞 2025/08/03

2025:6./ 306p
978-4-19-866010-9
¥1,980〔税込〕

サッカードリブル解剖図鑑～相手を抜くための論理的思考～

三笘 薫 著
エクスナレッジ
サッカー日本代表・三笘薫が自身のドリブル技術を徹底解剖。反発ステップ、切り返し、ターン、止める・蹴る、予備動作など、世界を魅了する技術を豊富なイラストとともに紹介する。

産経新聞 2025/08/03

2025:2./ 127p
978-4-7678-3354-5
¥1,540〔税込〕

まぼろしの馬

イサク・ディネセン 著
東宣出版
病床に臥した少女ノニーのもとに画家の叔父セドリックがやってきた。病の原因がかつて厩舎で遊んだ少年の死にあると知ったセドリックは、ノニーを馬具部屋に連れ出し…。1930 年頃の英国を舞台に子どもの世界と心奥を描く。

産経新聞 2025/08/03

2025:7./ 49p
978-4-88588-117-6
¥1,980〔税込〕

「腹八分目」の生物学～健康長寿の食とはなにか～(岩波科学ライブラリー 335)

小幡 史明 著
岩波書店
「「腹八分目」で育てたネズミは寿命がのびる」 全てはそこから始まった。長寿の鍵となる栄養素はなにか。腹八分目で老化そのものも防げるのか。そして不老長寿の薬は!? 気鋭の研究者が健康長寿への飽くなき探究を描く。

産経新聞 2025/08/03、読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 130p
978-4-00-029735-6
¥1,540〔税込〕

近畿地方のある場所について～文庫版～(角川文庫　せ 16-1)

背筋 著
KADOKAWA
私、小澤雄也は本書の編集を手掛けた人間だ。収録されているテキストは、様々な媒体から抜粋したものであり、その全てが「近畿地方のある場所」に関連している-。袋とじの「取材資料」付き。単行本とは内容が異なる文庫版。

産経新聞 2025/08/10

2025:7./ 346p
978-4-04-102655-7
¥880〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

鳥の夢の場合

駒田 隼也 著
講談社
「おれ、死んでもうた。やから殺してくれへん?」 一つ屋根の下、同居人の蓮見から初瀬にもたらされた、気軽で不穏な頼み事。あちらとこちらを隔てる川を見つめながら、「わたし」がする決断とは-。『群像』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/08/10

2025:7./ 148p
978-4-06-540425-6
¥1,760〔税込〕

荒野に果実が実るまで～新卒 23 歳アフリカ駐在員の奮闘記～(集英社新書ノンフィクション　1267)

田畑 勇樹 著
集英社
大学卒業と同時に NPO に就職しウガンダに駐在。飢えに苦しむ住民たちの命の危機に直面して、彼らが農業を営めば胃袋を満たすことができるのではないかと思い立ち…。飢餓援助の渦に飛び込んだ著者が、国際援助の実態を綴る。

産経新聞 2025/08/10

2025:6./ 269p
978-4-08-721367-6
¥1,243〔税込〕

シベリア抑留の全収容所を解き明かす～異国の丘に眠る同胞に捧げる鎮魂の史～

長勢 了治 著
原書房
シベリア抑留関連の日ソ双方の膨大な資料を徹底的に読み込み、各収容地区の抑留者数、死亡者数、所在地などを特定。生還者たちの数多くの手記を引用し、労働、食事、疾病など収容所での生活の実態を明らかにする。

産経新聞 2025/08/10

2025:5./ 460p
978-4-562-07550-8
¥6,380〔税込〕

奇才・勝田重太朗の生涯～近代日本のメディアを駆け抜けた男～

千野境子 著
論創社
新聞・ラジオ・テレビから、広告・出版・映画製作まで、大正・昭和のメディア界を渡り歩き、歴史の表舞台から去っていった勝田重太朗。徳富蘇峰に「現代新聞界ノ奇才ナリ」と言わしめた、知られざる先人の仕事と生涯を追う。

産経新聞 2025/08/10

2025:7./ 287p
978-4-8460-2501-4
¥3,080〔税込〕

ところで、愛ってなんですか?

鈴木晴香 著
左右社
片想い、失恋、自己愛、友愛、性愛、推しへの愛、恋をしないこと…。歌集「夜にあやまってくれ」など、一貫して愛を詠みつづけてきた著者が、自身の短歌や穂村弘、俵万智らの短歌を引用し、愛の悩みに答える。

産経新聞 2025/08/10

2025:7./ 165p
978-4-86528-479-9
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

四維街一号に暮らす五人

楊双子 著
中央公論新社
台中にある古い日式建築のシェアハウス・四維街一号に暮らす 4 人の大学院生女子と、家主の女性。賑やかだった共同生活はしかし、百年前の台湾料理レシピの出現と共に、ある家族の歴史と 5 人の女性の孤独を溶け合わせていく-。

産経新聞 2025/08/10、朝日新聞 2025/08/16

2025:7./ 247p
978-4-12-005926-1
¥2,090〔税込〕

昭和二年生まれの流儀

城山三郎／吉村昭 著
中央公論新社
同じ年に生まれ、昭和と歩みをともにした城山三郎と吉村昭。文学に生きたふたりが、昭和の戦争と日本人の生き方について語り合った対話と関連作品を収録する。

産経新聞 2025/08/10、読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 187p
978-4-12-005932-2
¥1,650〔税込〕

レモネードに彗星

灰谷　魚 著
KADOKAWA
美しい叔母とは大きな窓ごしにしか対面できない。もう 15 年も。私が死んでからの 15 年…。表題作をはじめ、少し不思議でハイパーポップな作品全 7 編を収録した短編集。note 掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

産経新聞 2025/08/17

2025:7./ 236p
978-4-04-116364-1
¥1,815〔税込〕

天下の値段～享保のデリバティブ～

門井 慶喜 著
文藝春秋
時は江戸時代、大坂堂島で特に盛んだったのが先物取引。幕閣は堂島を支配すべく動き出すのだが…。市場の自治を守らんとする大坂商人たちと、武士の誇り(とお金)を懸けた江戸幕府との頭脳戦。『別冊文藝春秋』掲載を書籍化。

産経新聞 2025/08/17

2025:8./ 415p
978-4-16-392002-3
¥1,980〔税込〕

新釈小泉八雲『怪談』

雪富 千晶紀 著
東京創元社
懐かしくも怖ろしい恐怖を掻き立てる、小泉八雲「怪談」の真髄を再現したホラー短編集。不可解な殺人事件と 2 つの失踪事件を刑事が追う「デラシネの頭骨」をはじめ、「白い吐息」など全 5 編を収録。

産経新聞 2025/08/17

2025:7./ 237p
978-4-488-02930-2
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

商人の戦国時代(ちくま新書　1871)

川戸 貴史 著

筑摩書房

中央権力が衰退し混迷する戦国時代。幕府、朝廷、大名など様々なプレイヤーが乱立するなか、商人たちは何を頼り生き延びたのか? 史料に現れる、余りに人間的なエピソードの数々から、乱世を生き延びる戦略を紹介する。

産経新聞 2025/08/17、朝日新聞 2025/08/23

2025:8./ 318p
978-4-480-07704-2
¥1,155〔税込〕

日本人拉致(岩波新書　新赤版 2064)

蓮池 薫 著

岩波書店

突如自由を奪われ、独裁体制下で生きた 24 年。なぜ北朝鮮に拉致されたのか。「マインドコントロール」「革命教育」の現実とは。国家的犯罪行為に翻弄された当事者が、知り得たすべてを記す。『世界』連載を加筆修正。

産経新聞 2025/08/17、読売新聞 2025/08/24

2025:5./ 228p
978-4-00-432064-7
¥1,034〔税込〕

特攻基地 知覧(角川新書　K-488)

高木　俊朗 著

KADOKAWA

南洋に面した知覧で、特攻隊員たちは何を想い飛び立ったのか? 俗説が氾濫する「特攻」の、知られざる証言を掬いあげる戦争ノンフィクションの金字塔。当時の取材写真と新規解説を増補し新書化。

産経新聞 2025/08/24

2025:7./ 419p
978-4-04-082532-8
¥1,430〔税込〕

こうふくろう

薬丸 岳 著

小学館

大学生の芹沢涼風は、池袋の公園で、同じように孤独に苛まれ行き場をなくした者たちに出会う。血がつながっていなくても強い絆で結ばれた「本物の家族」を作りたいと思い、親しくなるが…。『週刊ポスト』連載を加筆・修正。

産経新聞 2025/08/24

2025:7./ 527p
978-4-09-380130-0
¥2,310〔税込〕

幽霊の脳科学(ハヤカワ新書　046)

古谷　博和 著

早川書房

「タクシーに乗ってくる髪の長い女」は高速道路催眠現象、「神隠し」はてんかんによる記憶障害…? 脳神経内科医として数々の不思議な幻覚症状を長年診察してきた著者が、その診断基準を用いて古今東西の怪談を解き明かす。

産経新聞 2025/08/24

2025:8./ 214p
978-4-15-340046-7
¥1,254〔税込〕

エレガンス

石川 智健 著
河出書房新社
戦争で、空襲でどうせ死ぬ。それなのに、どうして殺人事件を追うのか? 東京大空襲の中で起こった洋装女性連続不審死。実在した警視庁の写真家と、“吉川線”を考案した鑑識第一人者が自殺と思われた事件に挑むミステリー。

産経新聞 2025/08/24

2025:7./ 350p
978-4-309-03974-9
¥2,178〔税込〕

ウクライナ危機以後～国際社会の選択と日本～

加茂 具樹／廣瀬 陽子／森 聡／渡辺 将人／鶴岡 路人／土屋 大洋／藤田 元信／古谷 知之／神保 謙 著
東洋経済新報社
世界は新しい秩序を築けるか。米中露等の大国の戦略、AI・デジタル技術が変える戦場の様相、日本の外交・安全保障戦略の転換点を多角的に分析。激動の時代における日本の針路を考える。

産経新聞 2025/08/24

2025:8./ 295p
978-4-492-44487-0
¥2,640〔税込〕

ウクライナ戦争後の世界秩序

下斗米 伸夫 著
集英社インターナショナル
なぜロシアはウクライナに侵攻したのか。なぜ国際社会は、戦争を防げなかったのか。トランプ政権の停戦へ向けた交渉は-。ロシア研究の第一人者が、ウクライナ戦争後の世界秩序のゆくえと新たな「文明の衝突」の核心に迫る。

産経新聞 2025/08/24

2025:6./ 239p
978-4-7976-7465-1
¥1,980〔税込〕

わすれ貝～歌集～(塔 21 世紀叢書 第 450 篇)

永田和宏 著
青磁社
手術後のベッドで選歌を始むるなりやれやれと言へど誰も応へず この借りはかならず返すとわれながら怖ろしきこと口にしてゐる 2016～2019 年の作品 506 首をまとめた第 16 歌集。

産経新聞 2025/08/24

2025:7./ 222p
978-4-86198-629-1
¥3,080〔税込〕

綱渡り(ルリユール叢書)

クロード・シモン 著
幻戯書房
画家になることの断念から「新しい小説」を書く作家へと自らを変貌させたクロード・シモン。<私小説>を想起させる自伝的小説にして、文学の前衛運動をいち早く先取りしていた、世界文学最初の<ヌーヴォー・ロマン>作品。

産経新聞 2025/08/24

2025:6./ 266p
978-4-86488-325-2
¥3,190〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

翠雨の人

伊与原 新 著

新潮社

少女時代、素朴な疑問を抱いたことから理系の道を選んだ猿橋勝子。戦時下で科学と戦争の関係を問い続けた勝子は、戦後、ビキニ水爆実験による放射能汚染の実態究明に打ち込んでいく-。『波』連載に加筆修正。

産経新聞 2025/08/31

2025:7./ 282p
978-4-10-336215-9
¥1,980〔税込〕

7

トリスタン・ガルシア 著

河出書房新社

ドラッグの売人、元ロック・スター、トップモデル、革命家、UFO 研究者、分断世界の監察官、そして、不滅の男-。フランスの気鋭の哲学者・作家が描く、7 つの物語が交差する奇想天外な小説作品。

産経新聞 2025/08/31

2025:8./ 517p
978-4-309-20929-6
¥5,280〔税込〕

戦国武家の死生観～なぜ切腹するのか～(幻冬舎新書　く-16-1)

フレデリック・クレインス 著

幻冬舎

忠義と裏切り、芸術と暴力-。相反する価値観の狭間で気高く生きた戦国武士たち。史料に残された生々しい逸話を現代語で紡ぎ直し、彼らの心情に寄り添いながら、戦国武将たちの激しくも豊かな精神世界を描き出す。

産経新聞 2025/08/31

2025:7./ 254p
978-4-344-98779-1
¥1,056〔税込〕

戦争が終わり、そして子どもたちの戦いが始まった～戦後 80 年を生き抜いた戦争孤児の物語～(PEACE BOOK 1)

長谷川敦 著

旬報社

戦争孤児たちにとって終戦は、平和の到来ではなく、苦難の始まりだった-。歴史的事実と 9 人の孤児たちへの取材を通じて、語られることのなかった「戦争孤児の戦後史」を紡ぎ出す。

産経新聞 2025/08/31

2025:8./ 256p
978-4-8451-2106-9
¥1,980〔税込〕

樹影(講談社文芸文庫　さ A1)

佐多 稲子 著

講談社

朝日新聞 2025/08/02

2012:7./ 398p

MARUZEN-YUSHODO

69 sixty nine(集英社文庫 む 2-20)

村上 龍 著
集英社
1969 年、東京大学は入試を中止し、街にはビートルズが流れ、ヒッピーは愛と平和を叫んでいた。佐世保に住む高校三年生の僕は、何かデカイことをしたくてうずうずしていた……。青春小説の金字塔。

朝日新聞 2025/08/02

2013:6./ 235p
978-4-08-745081-1
¥660〔税込〕

明日～一九四五年八月八日・長崎～(集英社文庫)

井上 光晴 著
集英社
誰が運命の〈明日〉を予測しただろうか。原爆投下の前日、長崎の人びとは迫りくる死の影も知らず、いつものように愛し、傷つき、生きていた…。核時代の〈今日〉を鮮烈に問う。

朝日新聞 2025/08/02

1986:7./ 223p
978-4-08-749120-3
¥594〔税込〕

舞妓さんちのまかないさん<30>(少年サンデーコミックススペシャル)

小山 愛子 著
小学館
京都のど真ん中、花街にある屋形でまかないさんとして暮らす少女キヨを主人公に、華やかな花街の舞台裏、普通の日のごはんを通して、温かな人間模様が描かれるお台所物語。

朝日新聞 2025/08/02

2025:6./ 140p
978-4-09-854123-2
¥770〔税込〕

沈黙　改版(新潮文庫)

遠藤 周作 著
新潮社
島原の乱が鎮圧されて間もないころ、キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教のうめき声に接して苦悩し、ついに背教の淵に立たされる……。

朝日新聞 2025/08/02

2003:5./ 312p
978-4-10-112315-8
¥781〔税込〕

皇后の碧

阿部 智里 著
新潮社
かつて火竜に家族を焼かれた少女ナオミは、風の精霊を統べる皇帝から「私の寵姫の座を狙ってみないか」と誘われるが…。悪名高き皇帝の居城に隠された、平和の裏の真実とは。謎が謎を呼ぶ、新次元の精霊ファンタジア。

朝日新聞 2025/08/02

2025:5./ 322p
978-4-10-355951-1
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

遠い山なみの光 新版(ハヤカワ epi 文庫 117)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

英国で暮らす悦子は、娘を自殺で失い、故郷での日々を振り返る。戦後の長崎で出会った母娘との友情の記憶は、やがて不穏の色を濃くしていき…。文芸評論家・三宅香帆の解説を付した新版。2025 年 9 月公開映画の原作。

朝日新聞 2025/08/02

2025:6./ 301p
978-4-15-120117-2
¥1,342〔税込〕

聖水(文春文庫)

青来 有一 著

文芸春秋

死に瀕した父はなぜ「聖水」を信じ続けるのか?佐我里さんは教祖か、詐欺師か?芥川賞を受賞した表題作をはじめ、四篇を収録

朝日新聞 2025/08/02

2004:6./ 373p

螺旋墜落(文春文庫 ウ 25-1)

キャメロン・ウォード 著

文藝春秋

午前 0 時、数学教師チャーリーを乗せた旅客機は墜落した。だが次の瞬間、チャーリーは午後 11 時 1 分の機内にいた。時間がループしていることを知った彼女は事故の阻止に挑むが、ループは一周ごとに短くなってゆき…。

朝日新聞 2025/08/02

2025:7./ 398p
978-4-16-792395-2
¥1,265〔税込〕

元気でいてね(FCswing)

藤原ハル 著

祥伝社

朝日新聞 2025/08/02

2025:7./ 192p
978-4-396-75077-0
¥858〔税込〕

ぼっちのアリは死ぬ～昆虫研究の最前線～(ちくま新書 1851)

古藤 日子 著

筑摩書房

家族を守る、治療する、感染リスクを見極める…。社会性昆虫であるアリは、ヒトと似て、他者と関わり、社会のなかで生きていく。社会から出て、ぼっちになったアリはどうなるのか。分子生物学でアリ社会の謎を解く。

朝日新聞 2025/08/02

2025:4./ 192p
978-4-480-07680-9
¥924〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

反転領域(創元 SF 文庫 SF レ 4-1)

アレステア・レナルズ 著
東京創元社
19 世紀、医師サイラスが乗る帆船デメテル号は北極探検に向かっていた。そこで古代に建造された未知の大建築物に遭遇し、予想だにしなかった事態が起こり…。超絶展開の傑作 SF。

朝日新聞 2025/08/02

2025:7./ 413p
978-4-488-62711-9
¥1,650〔税込〕

アメリカ帝国～グローバル・ヒストリー～<上>

A・G・ホプキンズ 著
ミネルヴァ書房
グローバリゼーションの進展とともに展開してきたアメリカ合衆国の歴史を描く。上は、イギリスへの従属、南北戦争を経て独立達成後、「島嶼帝国」を獲得し、西欧の他の帝国主義と同様に振舞うまでを取り扱う。

朝日新聞 2025/08/02

2025:4./ 560p
978-4-623-09771-5
¥6,600〔税込〕

アメリカ帝国～グローバル・ヒストリー～<下>

A・G・ホプキンズ 著
ミネルヴァ書房
グローバリゼーションの進展とともに展開してきたアメリカ合衆国の歴史を描く。下は、近代帝国が絶頂期を経て、解体に向かう時期を取り扱い、存続の危機に直面しつつも帝国への野望を抱き続けるその姿に迫る。

朝日新聞 2025/08/02

2025:4./ 372p
978-4-623-09772-2
¥6,050〔税込〕

オノ・ヨーコ

デヴィッド・シェフ(David Sheff) 著
ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
東京の裕福な家庭に生を受け、子供時代の悲惨な戦争体験を経て、ロンドン、東京、ニューヨークの前衛芸術シーンに躍り出たオノ・ヨーコ。芸術、音楽、フェミニズムや社会運動における先駆的な活動を深掘りする。

朝日新聞 2025/08/02

2025:6./ 421p
978-4-636-98036-3
¥3,850〔税込〕

スコットランドと<開かれた>ナショナリズム～分離独立・福祉・移民～

髙橋 誠 著
慶應義塾大学出版会
2014 年の住民投票以来、分離独立に揺れるスコットランド。分離独立・福祉・移民をめぐる言説を丹念に紐解くことで、現代スコットランドのナショナリズムの動態を描き出す。

朝日新聞 2025/08/02

2025:5./ 352p
978-4-7664-3034-9
¥6,930〔税込〕

急に具合が悪くなる

宮野真生子／磯野真穂 著

晶文社

がんの転移を経験しながら生き抜く哲学者と、臨床現場の調査を積み重ねた人類学者が、死と生、別れと出会い、そして出会いを新たな始まりに変えることを巡り、人生を賭けて交わした 20 通の往復書簡。

朝日新聞 2025/08/02

2019:9./ 255p
978-4-7949-7156-2
¥1,760〔税込〕

チハヤリスタート!<1>(ＦＵＺコミックス)

たけうちホロウ 著

芳文社

足が速いことだけが取り柄の女・桜坂千早。中学で永遠のライバル、小清水澪と出会うことで陸上の世界に飛び込んだチハヤは、別々の高校に進学したミオと、インターハイで戦うことを約束するのだが…。

朝日新聞 2025/08/02

2025:4./ 194p
978-4-8322-0506-2
¥792〔税込〕

すばらしい展覧会をつくろう

ドロ グローバス、ローズ ブレイク 著

ＨｅＨｅ

アーティストと美術館の仕組みを面白く読み解いた、カラフルで遊び心いっぱいの絵本。2 人のアーティストの作品がスタジオから展覧会へと旅する過程と、そこに関わるキュレーター、鑑賞者など個性豊かな人たちを紹介します。

朝日新聞 2025/08/02

2025:7./ 40p
978-4-908062-64-3
¥3,300〔税込〕

8 番出口～小説～

川村元気 著

水鈴社

異変を見逃さないこと。8 番出口から外に出ること-。“異変”探し無限ループゲーム「8 番出口」の実写映画を製作した監督・川村元気が、ゲームを原作として書き下ろしたオリジナル小説。

朝日新聞 2025/08/02

2025:8./ 170p
978-4-910576-04-6
¥976〔税込〕

追われゆく坑夫たち(同時代ライブラリー　197)

上野　英信 著

岩波書店

戦後日本には「貧困」があった。地の底の炭坑では人間が石炭を掘っていた－日本資本主義を最底辺で支えた筑豊の中小炭坑の悲惨な実態を暴いた、1960 年 8 月初版の本書は怠惰と飽食の現代を痛撃し続ける。

朝日新聞 2025/08/09

1994:9./ 248p

MARUZEN-YUSHODO

まっくら～女坑夫からの聞き書き～(岩波文庫　緑 226-1)

森崎 和江 著

岩波書店

筑豊の炭鉱で働いた女性たちの声を聞き取り、その生き様を記録。自らへの誇りを失わず、真っ暗な地の底で過酷な採炭労働に従事した彼女たちの逞しさを生き生きと描く。

朝日新聞 2025/08/09

2021:10./ 329p
978-4-00-312261-7
¥880〔税込〕

人は愛するに足り、真心は信ずるに足る～アフガンとの約束～(岩波現代文庫　社会 328)

中村 哲、澤地 久枝 著

岩波書店

劣悪な生存条件に喘ぐアフガニスタンで、復興の先頭に立って邁進してきた故・中村哲医師。人々の篤い信頼と尊敬をかちえ、アフガン再建の道筋を示した彼の姿を伝える。遺志を受け継ぐ現地スタッフからの便りも収録。

朝日新聞 2025/08/09

2021:9./ 318p
978-4-00-603328-6
¥1,188〔税込〕

からゆきさん～異国に売られた少女たち～(朝日文庫　も 1-4)

森崎和江 著

朝日新聞出版

16 歳で朝鮮に売られ、狂死したキミ。東南アジアで財をなし、壮絶な自殺を遂げたヨシ。売られていった女たちが、異国の地で見た夢は何だったのか。綿密な取材と膨大な資料をもとに「からゆきさん」の軌跡を辿る。

朝日新聞 2025/08/09

2016:8./ 258p
978-4-02-261874-0
¥825〔税込〕

14 歳<フォーティーン>～満州開拓村からの帰還～(集英社新書　0789)

澤地 久枝 著

集英社

昭和を見つめ、一貫して戦争や国家を問うてきた著者の原点となったのは、十四歳での敗戦体験だった。満州でむかえた敗戦、難民生活と壮絶な引き揚げ体験。自身がくぐり抜けてきた「戦争」のすべてを、いま、赤裸々に綴る。

朝日新聞 2025/08/09

2015:6./ 189p
978-4-08-720789-7
¥880〔税込〕

日本とアジア(ちくま学芸文庫)

竹内好 著

筑摩書房

西欧化だけが日本の近代化の道だったのか－。魯迅を敬愛する思想家が、戦前からの中国文学研究の蓄積のうえに、日本の近代化、中国観・アジア観、ナショナリズムを鋭く問い直した評論集。

朝日新聞 2025/08/09

1993:11./ 491p
978-4-480-08104-9
¥1,650〔税込〕

慶州は母の呼び声～わが原郷～　新版(ちくま文庫　も 7-2)

森崎 和江 著

筑摩書房

わたしが愛した「やさしい故郷」は日本が奪った国だった-。現地で教師を務める父、温かな母と弟妹、そしてオモニたち。1927 年、日本統治下の朝鮮に生まれた作家・森崎和江の切なる自伝エッセイを復刊。

朝日新聞 2025/08/09

2023:11./ 257p
978-4-480-43919-2
¥880〔税込〕

ナチ時代のドイツ国民も「犠牲者」だったのか～犠牲者の歴史政治学～

高橋　秀寿 著

白水社

戦後ドイツの「過去の克服」と「犠牲者」言説の変遷を追い、歴史認識と国民形成の関係を根本から問い直す。<加害者 vs 犠牲者>の二分法から脱し、<加害者-能動的犠牲者-受動的犠牲者>という概念の複合体を通して分析。

朝日新聞 2025/08/09

2025:4./ 200p
978-4-560-09162-3
¥2,640〔税込〕

環境地政学(文庫クセジュ　1071)

アドリアン・エステーヴ 著

白水社

地球環境問題の地政学的次元の諸課題をまとめた入門書。人新世において環境問題が国際政治に与える影響を検討し、国際関係論の枠組みを見直す必要性を提起する。

朝日新聞 2025/08/09

2025:7./ 152p
978-4-560-51071-1
¥1,540〔税込〕

構想なき革命～毛沢東と文化大革命の起源～(慶應義塾大学法学研究会叢書 95)

高橋 伸夫 著

慶應義塾大学出版会

中国社会のあらゆる階層を巻き込んだ共産党史上最大の政治運動、文化大革命。指導者が社会を暴力的に国家に立ち向かわせたのはなぜか。構想をもたない階級闘争へと毛沢東と指導者たちを導いた要因を、精緻に探る。

朝日新聞 2025/08/09

2025:4./ 544p
978-4-7664-3021-9
¥9,350〔税込〕

希望の一滴～中村哲、アフガン最期の言葉～

中村哲 著

西日本新聞社

治療よりも水と食料が必要だ-。1600 本の井戸を掘り、65 万人の命を支える用水路を建設した医師・中村哲の活動を、彼の言葉と数々の写真で振り返る。『西日本新聞』『ペシャワール会報』ほか掲載を書籍化。

朝日新聞 2025/08/09

2020:12./ 191p
978-4-8167-0988-3
¥1,650〔税込〕

水脈を聴く男

ザフラーン・アルカースィミー 著

書肆侃侃房

井戸で発見された溺死体のお腹から取り出された胎児。胎児には大地の「水脈を聴く」能力が宿っていた。やがて水源を探し当てる「水追い師」として各地で引く手あまたになるが…。水をめぐる傑作長編。

朝日新聞 2025/08/09

2025:5./ 213p
978-4-86385-674-5
¥2,200〔税込〕

上野英信集(戦後文学エッセイ選)

上野　英信 著

影書房

上野英信が晩年全力を投入して監修した「写真万葉録・筑豊」や「廃鉱譜」の「あとがき」など、その生涯と仕事を語るにふさわしいエッセイの数々を収録。径書房刊「上野英信集」を底本としつつ、各初出単行本からも選出する。

朝日新聞 2025/08/09

2006:2./ 245p
978-4-87714-342-8
¥2,420〔税込〕

たのしい保育園

滝口 悠生 著

河出書房新社

2 歳のももちゃんとお父さんは日々、川べりや公園を歩く。過ぎていく時間と折々の記憶は、いつしか祈りへと昇華していく-。ニュートラルに子育てにたずさわる新時代の「父」の物語。『文藝』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

朝日新聞 2025/08/09、読売新聞 2025/08/31

2025:4./ 215p
978-4-309-03961-9
¥2,200〔税込〕

大田昌秀～沖縄の苦悶を体現した学者政治家～(中公新書　2865)

野添 文彬 著

中央公論新社

沖縄戦で死線を彷徨い、戦後は論壇で活躍。沖縄県知事に就任した後は米軍基地問題と対峙した大田昌秀。100 冊以上の自著で沖縄の苦悩を記し、沖縄現代史と共に歩んだその生涯に迫る。略年表も収録。

朝日新聞 2025/08/09、日本経済新聞 2025/08/09

2025:7./ 256p
978-4-12-102865-5
¥1,078〔税込〕

男女賃金格差の経済学

大湾秀雄 著

日経ＢＰ社

賃金における真の男女格差をいかに測り、改善するか。男女格差解消のために、理論的なフレームワーク、社会科学研究で明らかになったエビデンスの概要、データに基づく意思決定の方法論などを解説する。

朝日新聞 2025/08/09、毎日新聞 2025/08/23

2025:6./ 241p
978-4-296-11836-6
¥2,200〔税込〕

パワー・オブ・マネー新・貨幣入門

ポール・シェアード 著

早川書房

お金こそが人類繁栄の鍵となったが、同時に金融危機などの大惨事をも引き起こしてきた。「貨幣の力」を正しく理解し、使いこなすには。日本経済に精通したエコノミストが説く。日本語版オリジナルあとがき、用語集も収録。

朝日新聞 2025/08/10

2025:6./ 326p
978-4-15-210432-8
¥3,850〔税込〕

てぶ～くろ(笑本おかしばなしデラックス　3)

ガタロー☆マン 著

誠文堂新光社

おじいさんが落としたてぶくろに、動物たちがもぐりこみ…ました!!! あったか～い!!! ギャグマンガ一筋の作者が「てぶくろ」を本気で描く。声優・杉田智和&戸田恵子による読み聞かせ音声用 QR コード付き。

朝日新聞 2025/08/10

2025:5./ 58p
978-4-416-52513-5
¥1,430〔税込〕

昭和史<戦前篇>　新版　1926-1945(平凡社ライブラリー　979)

半藤　一利 著

平凡社

満州事変、日中戦争、太平洋戦争…。日本人はなぜ戦争を繰り返したのか。国民的熱狂の危険、抽象的な観念論への戒めとともに、昭和戦前・戦中のあゆみを授業形式で語る。

朝日新聞 2025/08/10

2025:1./ 567p
978-4-582-76979-1
¥1,320〔税込〕

昭和史<戦後篇>　新版　1945-1989(平凡社ライブラリー　980)

半藤　一利 著

平凡社

日本はどんな道を歩んできたのか。焼け跡からの復興、講和条約、高度経済成長、バブル崩壊の予兆など、昭和 20 年の敗戦にはじまる日本の戦後史を授業形式で語る。

朝日新聞 2025/08/10

2025:1./ 630p
978-4-582-76980-7
¥1,320〔税込〕

統制百馬鹿～水島爾保布戦中毒舌集～

前田 恭二 著

岩波書店

戦中の言論統制下、記事や漫画を国粋主義雑誌に連載して検閲の目をかわし、体制を批判し続けた画家・文筆家の水島爾保布。その戦中痛快コラムを選りすぐり、盧溝橋事件から敗戦直前まで、物資窮乏、闇経済などの実態を伝える。

朝日新聞 2025/08/16

2025:7./ 334p
978-4-00-061706-2
¥3,300〔税込〕

「戦争経験」の戦後史～語られた体験/証言/記憶～　増補(岩波現代文庫　学術 423)

成田 龍一 著
岩波書店
戦後、人々は戦争との距離をはかることにより自らのアイデンティティを確認し、主体を形成してきた。敗戦からの時間的経過や社会的状況に応じて変容してゆく戦争についての語りの変遷を辿りながら、戦後日本社会の特質に迫る。

朝日新聞 2025/08/16

2020:8./ 388p
978-4-00-600423-1
¥1,738〔税込〕

草の根のファシズム～日本民衆の戦争体験～(岩波現代文庫　学術 452)

吉見 義明 著
岩波書店
日中戦争、アジア太平洋戦争を引き起こした天皇制ファシズム。その被害者とされてきた民衆がファシズムを支えていたこと、そして戦争末期の悲惨な体験から戦後デモクラシーが生まれたことを、民衆による記録から明らかにする。

朝日新聞 2025/08/16

2022:8./ 340p
978-4-00-600452-1
¥1,738〔税込〕

べっぴんぢごく(角川ホラー文庫 い 3-23)

岩井　志麻子 著
KADOKAWA
美女と醜女が交互に生まれる、呪われた家系の七代の女たち。途絶えぬ因果は、竹井家の女を地獄の運命へと絡めとっていく。彼女たちの目に映し出される、怨念と惨劇の数々とは…。書き下ろし「第十三章シヲ百三十六歳」も収録。

朝日新聞 2025/08/16

2025:7./ 300p
978-4-04-116387-0
¥1,012〔税込〕

らんたん(新潮文庫　ゆ-14-4)

柚木 麻子 著
新潮社
河井道は札幌で新渡戸稲造に学び、米ブリンマー大学に留学、帰国後は津田梅子が創設した女子英学塾で教えた。良妻賢母ではなく、ひとりの人間として生きるための女学校をつくろうと、道は教え子の渡辺ゆりと奔走し…。

朝日新聞 2025/08/16

2025:8./ 730p
978-4-10-120244-0
¥1,210〔税込〕

松本清張の女たち

酒井 順子 著
新潮社
お嬢さん探偵、黒と白のオールドミス、不倫の機会均等…。松本清張が女性誌で書いた小説群に着目。そこに登場する女性主人公たちを考察し、「昭和に生きた女」の変遷を映し出す。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2025/08/16

2025:6./ 240p
978-4-10-398511-2
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

朝鮮戦争を戦った日本人

藤原 和樹 著

ＮＨＫ出版

朝鮮戦争に「自ら行った」日本人がいた-。米軍とともに朝鮮半島で行動した日本人たちの尋問記録を読み解き、戦争協力の真実に迫る。2019 年 8 月放送の NHK BS1 スペシャルの内容をもとに書籍化。

朝日新聞 2025/08/16

2020:12./ 333p
978-4-14-081849-7
¥2,090〔税込〕

見えない世界で見えてきたこと

石井健介 著

光文社

見えていたころには見えなかった目には見えない大切なものが見えてきた。僕は生きることがずっと楽になった-。36 歳にして視力を失った著者による、小説のような自伝エッセイ。

朝日新聞 2025/08/16

2025:5./ 175p
978-4-334-10658-4
¥1,870〔税込〕

戦国十二刻 女人阿修羅(光文社文庫　光文社時代小説文庫 き 25-3)

木下昌輝 著

光文社

長久手の戦いで家康が勝利するまでの 24 時間、伊達家と最上家を和睦させるまでの 24 時間…。荒れ狂う世に翻弄された 7 人の女性たちの濃密な 24 時間を描いた時代小説。

朝日新聞 2025/08/16

2025:7./ 342p
978-4-334-10711-6
¥968〔税込〕

戦争と西洋～西側の「正義」とは何か～(筑摩選書　0305)

西谷 修 著

筑摩書房

世界大戦終結から 80 年、世界はふたたび全面戦争への傾斜の上に立っている。この間の戦争の経緯を分析し、「正義の戦争」が世界に何をもたらすのかを検証する。『トイビト』連載をもとに書籍化。

朝日新聞 2025/08/16

2025:6./ 269p
978-4-480-01823-6
¥1,925〔税込〕

十五年戦争小史(ちくま学芸文庫　エ 14-1)

江口 圭一 著

筑摩書房

戦争は、誰によっておこされ、どのように展開したのか-。1931 年の柳条湖事件の謀略に始まり、45 年ポツダム宣言受諾と降伏文書調印によって終わった一連の戦争「十五年戦争」の曲折に満ちた過程と全体像を克明に描く。

朝日新聞 2025/08/16

2020:10./ 416p
978-4-480-51006-8
¥1,430〔税込〕

なぜ書くのか～パレスチナ、セネガル、南部を歩く～

タナハシ・コーツ 著
慶應義塾大学出版会
奴隷制の記憶が残るアメリカ南部、植民地支配の影が今も横たわるセネガル、分断の続くパレスチナ。そこに生きる人びとの声に耳を傾け、「書くこと」の力と責任を深く問う…。世界の不条理に言葉で立ち向かう書き手の魂の記録。

朝日新聞 2025/08/16

2025:7./ 218p
978-4-7664-3040-0
¥2,750〔税込〕

カミュふたつの顔

オリヴィエ・グローグ 著
青土社
正義感溢れる小説家か、それとも植民地主義の相続人か-。カミュとその作品におけるアルジェリアとの関係に焦点を当てながら、反植民地主義者にしてヒューマニストという称号を与えられた作家の、もうひとつの顔を描き出す。

朝日新聞 2025/08/16

2025:5./ 262p
978-4-7917-7716-7
¥3,520〔税込〕

エレベーターのボタンを全部押さないでください

川内 有緒 著
ホーム社
メキシコの走る民族、飼っていた 2 匹の個性的な猫…。海外での驚くべき旅や出会い、日常に潜む冒険のような出来事、そして死生観などを綴った、ノンフィクション作家・川内有緒の初エッセイ集。

朝日新聞 2025/08/16

2025:6./ 253p
978-4-8342-5401-3
¥1,980〔税込〕

橘の家

中西 智佐乃 著
新潮社
幼い頃に 2 階のベランダから落ちたものの、庭の橘の木のおかげで助かった恵実。橘の木が持つとされる妊娠をもたらす力を恵実が媒介するという噂が流れ、子どもを望む人々が家を訪れるようになり…。『新潮』掲載を単行本化。

朝日新聞 2025/08/23

2025:6./ 156p
978-4-10-355112-6
¥2,090〔税込〕

教養主義の没落～変わりゆくエリート学生文化～(中公新書)

竹内　洋 著
中央公論新社
朝日新聞 2025/08/23

2003:7./ 278p
978-4-12-101704-8
¥968〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

クララとお日さま(ハヤカワ epi 文庫 109)

カズオ・イシグロ 著
早川書房
人工知能を搭載したロボットのクララは、ジョジーという病弱な少女の家庭に買い取られた。やがて 2 人は友情を育んでいくが、一家には大きな秘密があった…。愛とは? 知性とは? 家族とは? 生きることの意味を問う感動作。

朝日新聞 2025/08/23

2023:7./ 490p
978-4-15-120109-7
¥1,650〔税込〕

AI リスク教本～攻めのディフェンスで危機回避&ビジネス加速～

日本 IBM AI 倫理チーム 著
日経ＢＰ社
企業が安全に AI(人工知能)を使う方法をエキスパートが指南。IBM が蓄積してきたビジネス AI の知見に基づき、AI の具体的なリスクや、それにどのような対策を講じるべきかを整理する。

朝日新聞 2025/08/23

2023:12./ 270p
978-4-296-20408-3
¥2,420〔税込〕

経済とイデオロギーが引き起こす戦争

岩田 規久男 著
光文社
第一次大戦、第二次大戦、ロシアのウクライナ侵攻。戦争勃発の真因は何か? 経済学の専門家が、経済とイデオロギーの相互関連に注目しながら、戦争が起きる原因を探る。

朝日新聞 2025/08/23

2025:7./ 400p
978-4-334-10634-8
¥3,300〔税込〕

AI の倫理学

M. クーケルバーク 著
丸善出版
浸透しつつある AI とどう手を取り合うか? 人工知能がもたらす様々な倫理的疑問に対して丁寧に回答し、受け入れ可能な統合的な見方を提示。AI 社会が人間中心に発展するアイデアも提案する。

朝日新聞 2025/08/23

2020:12./ 208p
978-4-621-30588-1
¥2,640〔税込〕

クィアのカナダ旅行記

水上 文 著
柏書房
日本と違って同性婚ができて、「LGBTQ 先進国」と言われるカナダ。先住民や有色人種への差別が残り、パレスチナ解放をめぐって揺れ動いてもいるカナダ。2 度の滞在をもとに、日本のクィアとして感じたことを綴った記録。

朝日新聞 2025/08/23

2025:5./ 215p
978-4-7601-5631-3
¥1,760〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

クィア・レヴィナス

古怒田望人、いりや 著
青土社
レヴィナスはなにを規範とし、なにを不在にしたのか、そこにはなにが可能的に蠢いていたのか、そのテクストがいまクィアに、クィアへ開かれていく-。ジェンダークィアを生きる著者によるまったく新しいレヴィナス論。

朝日新聞 2025/08/23

2025:3./ 256p
978-4-7917-7703-7
¥2,860〔税込〕

シェルパ斉藤の還暦ヒッチハイク(わたしの旅ブックス 062)

斉藤 政喜 著
産業編集センター
中央道一周、北海道で選挙カー…。キャリア 40 年以上の旅人・シェルパ斉藤が、還暦以降も続けているヒッチハイクの中から、とくに思い出深い旅を収載。旅気分を味わいながら、ヒッチハイクのノウハウも身につく。

朝日新聞 2025/08/23

2025:7./ 254p
978-4-86311-449-4
¥1,760〔税込〕

アフターブルー

朝宮 夕 著
講談社
葬儀関係のプロ集団「株式会社 C・F・C」で、事故、事件など損傷の激しい遺体を扱う「二課」は、無残な状態から生前の面影を復元するのがミッション。そして納棺師たちもまた、それぞれに“喪失”を抱えていて…。

朝日新聞 2025/08/23、日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 276p
978-4-06-539158-7
¥2,255〔税込〕

激動の時代

マリオ・バルガス＝リョサ／久野 量一 著
作品社
嘘が真実になり、ラテンアメリカを変えた-。冷戦期のグアテマラで展開される、権謀術数渦巻く国際政治の闇を複眼的に描いた傑作。ラテンアメリカ文学ブームを先導した巨匠マリオ・バルガス=リョサの最晩年の長篇。

朝日新聞 2025/08/29

2025:8./ 329p
978-4-86793-103-5
¥3,960〔税込〕

マザーアウトロウ(100 min.NOVELLA)

金原 ひとみ 著
U－NEXT
40 歳の波那の目の前に現れたのは、上下金色でかためたアッパーな 53 歳の義母・張子だった。エネルギッシュな張子に付き合っていくうち、嫁姑を超え、同じ女性として、人生の選択について語り合うように…。

朝日新聞 2025/08/29

2025:7./ 182p
978-4-910207-57-5
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

歌の祭り(岩波文庫　赤 N509-3)

ル・クレジオ 著

岩波書店

攻撃ではなく優しさ、叫びや饒舌ではなく沈黙、征服ではなく融合-。南北両アメリカに生きる先住民たちの生活の美しさと秘められた知恵、深遠な宇宙観を、みずみずしくかつ硬質な文体で描いた民族誌。

朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 339p
978-4-00-375172-5
¥1,155〔税込〕

中受～12 歳の交差点～

工藤 純子 著

講談社

難関都立中学を受ける新、自分に合った私立中学を探す広翔、小 6 の 12 月に AO 入試を知るつむぎ…。三者三様の動機と道のりから、加熱する中学受験のリアルを描き出す。

朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 217p
978-4-06-539910-1
¥1,650〔税込〕

皆のあらばしり(新潮文庫　の-21-1)

乗代 雄介 著

新潮社

高校の歴史研究部に所属するぼくは、ある日皆川城址で中年男に出会う。男は、ぼくが入手した旧家の蔵書目録を奪い取り…。表題作に「ニセ偽書事始」「『皆のあらばしり』の成立について」を加え文庫化。

朝日新聞 2025/08/30

2025:8./ 167p
978-4-10-106261-7
¥572〔税込〕

ロックで独立する方法(新潮文庫　い-42-2)

忌野 清志郎 著

新潮社

夢と現実には桁違いのギャップがある。その上学校も会社も<数字の奴隷>ばかりだ。そんな世界から<独立>したいなら、やりかたを教えよう-。不世出のバンドマン・忌野清志郎が、真の自由を手に入れるための方法を明かす。

朝日新聞 2025/08/30

2019:4./ 249p 図版 16p
978-4-10-127312-9
¥781〔税込〕

焦げついた影

カミーラ・シャムジー 著

早川書房

1945 年 8 月 9 日、田中寛子は長崎の山々を見つめていたが…。長崎の原爆投下、インド・パキスタン分離独立、ソ連のアフガニスタン侵攻、2001 年同時多発テロ事件。激動の現代史に翻弄された日本人女性の生の軌跡を描く。

朝日新聞 2025/08/30

2025:7./ 455p
978-4-15-210435-9
¥3,740〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

裸のランチ　完全版(河出文庫　ハ 5-1)

ウィリアム・S・バロウズ 著
河出書房新社
麻薬中毒のリーは捜査の手を逃れてニューヨークを脱出し、魑魅魍魎の跋扈するインターゾーンへ…。猥雑な描写、入り乱れる時系列。発表時に大論争を巻き起こした問題作にして、ビートニク文学の最高傑作。

朝日新聞 2025/08/30

2025:5./ 387p
978-4-309-46815-0
¥1,540〔税込〕

創られた「日本の心」神話～「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史～(光文社新書)

輪島　裕介 著
光文社
明治の自由民権運動の中で現われ、昭和初期に衰退した「演歌」が、1960 年代後半に別な文脈で復興し、やがて「真正な日本の文化」とみなされるようになった過程と意味を、膨大な資料と具体例によって論じる。

朝日新聞 2025/08/30

2010:10./ 358p
978-4-334-03590-7
¥1,045〔税込〕

ないもの、あります(ちくま文庫)

クラフト・エヴィング商会 著
筑摩書房
朝日新聞 2025/08/30

2009:2./ 125p
978-4-480-42571-3
¥990〔税込〕

もしも君の町がガザだったら(ポプラ社ノンフィクション　平和 50)

高橋　真樹 著
ポプラ社
小学生から読める「パレスチナ問題」入門書。占領、封鎖、爆撃、飢餓など、あらゆる人道的危機に苦しみ続けるパレスチナの歴史を紐解きながら、わかりやすく解説する。おすすめの本や映画、年表も収録。

朝日新聞 2025/08/30

2025:7./ 295p
978-4-591-18644-2
¥1,980〔税込〕

すべての J-POP はパクリである～現代ポップス論考～(扶桑社文庫　ま 17-1)

マキタスポーツ 著
扶桑社
J-POP は元ネタありきであり、すべてがノベルティー・ソングである! 構造分析フェチ、マキタスポーツが、カノン進行、J-POP 頻出ワード、楽曲構成など、「ヒット曲に共通する要素」を徹底分析・分解する。

朝日新聞 2025/08/30

2018:5./ 284p

MARUZEN-YUSHODO

となりの史学～戦前の日本と世界～

加藤陽子 著
毎日新聞出版
なぜ戦争は避けられなかったのか。近代の「戦争」と「世界」について、世界の第一線の歴史学者らが考え尽くした研究の成果を、モリナガ・ヨウのイラストを交えて紹介する。東京大学出版会の PR 誌『UP』連載を元に単行本化。

朝日新聞 2025/08/30

2025:5./ 317p
978-4-620-32837-9
¥2,200〔税込〕

日本老いと成熟の平和

トム・フォン・リ 著
みすず書房
少子高齢化と諸規範が形づくる日本独自の「非軍事主義の生態システム」とは? 広島に学んだ米研究者が、各種統計データに加え、元防衛相から被爆者に至る 70 人超のインタビューをもとに解き明かす。

朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 480p
978-4-622-09783-9
¥4,950〔税込〕

君たちの記念碑はどこにある?～カリブ海の<記憶の詩学>～

中村 達 著
柏書房
西洋の思想家が信奉する歴史の「外」に置かれてきた、カリブ海作家たちが想像/創造するオルタナティヴな思想の精華は、どのような姿をしているだろうか? カリブ海の風景に沈む地域的記憶を訪ねゆく試みをまとめる。

朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 351p
978-4-7601-5632-0
¥2,530〔税込〕

ONE DAY～ホロコーストと闘いつづけた父と息子の実話～

マイケル・ローゼン 著
鈴木出版
ナチス・ドイツに占領されたパリに住むユダヤ人ユージン。数えきれないほどのユダヤ人が命を落とすなか、ユージンと父親のオスカーは闘い続け…。風化させてはいけない戦争の記憶を描く。

朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 33p
978-4-7902-5449-2
¥2,200〔税込〕

俳諧大要　改版(岩波文庫　緑 13-7)

正岡 子規 著
岩波書店
俳句革新を志した正岡子規の、気概あふれる俳句入門書。「俳句と他の文学」「俳句の種類」「俳句と四季」「俳諧連歌」など、初学者に向けて俳句の要諦を簡潔に説く。

朝日新聞 2025/08/31

2025:4./ 145p
978-4-00-360059-7
¥572〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

近代俳句の初志～井口時男評論集～

井口　時男 著
コールサック社
虚子も碧梧桐もまちがった? 子規の初志「非空非実の大文学」を継承したのは昭和の新興俳句だった! 子規から今日までに至る近代俳句表現史を素描した、井口時男の俳句評論集。自身の俳句への遅参のいきさつなども綴る。

朝日新聞 2025/08/31

2025:7./ 300p
978-4-86435-667-1
¥2,200〔税込〕

『俳星』でたどる秋田近代俳句史

京極雅幸 著
秋田魁新報社
明治 33 年に創刊され、秋田の「俳句革新」の舞台となった俳誌『俳星』。その足跡をたどり、石井露月、島田五空など、秋田の近代俳句を築いた俳人たちの人間ドラマを描く。『秋田魁新報』連載を加筆・修正。

朝日新聞 2025/08/31

2025:7./ 245p
978-4-87020-449-2
¥1,650〔税込〕

龍と謙信

武川　佑 著
KADOKAWA
父から越後守護代を奪った長尾景虎への復讐のため、母から“女”を捨てさせられた於龍。長尾の重臣たちが 2 人の婚姻を越後支配のために利用する一方で、甲斐の武田晴信は隣国侵攻の調略を始めようとしていて…。

東京・中日新聞 2025/08/02

2025:7./ 283p
978-4-04-115806-7
¥2,090〔税込〕

小名浜ピープルズ

小松 理虔 著
里山社
10 年を経た「震災後」を、地元の人々はどう暮らしてきたのか。福島県いわき市小名浜で生まれ育ち地域活動をしてきた著者が、魅力的な市井の人々の話を聞き、綴った、災害が絶えない世界に光を灯す人物録。

東京・中日新聞 2025/08/03

2025:5./ 251p
978-4-907497-23-1
¥2,530〔税込〕

凡夫寺島知裕。～「BUBKA」を作った男～

樋口 毅宏 著
清談社 Publico
彼ほど嫌いな人間はいなかった-。1990～2000 年代、時代を狂喜させた伝説の“鬼畜系”サブカル雑誌『BUBKA』。その創刊編集長のちっぽけな栄光とろくでもない死に迫る愛憎ノンフィクション。

東京・中日新聞 2025/08/03

2025:6./ 247p
978-4-909979-80-3
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

三毒狩り<上>

東山彰良 著
毎日新聞出版
毛沢東率いる中国共産党が全権を握る村で、捨て子の少年は養父母の庇護のもと平和に暮らしていた。そんななか、共産党のある青年幹部が村に赴任し、一家の暮らしに変化が訪れ…。『毎日新聞』連載を加筆修正。

東京・中日新聞 2025/08/09

2025:7./ 260p
978-4-620-10877-3
¥1,980〔税込〕

三毒狩り<下>

東山彰良 著
毎日新聞出版
捨て子だった青年は、養父母を失い、その元凶である青年幹部に復讐。自らも殺人の咎で銃殺刑に処されたが、ひょんなことから冥土で功績が認められ、ある条件と引き換えに“この世”に舞い戻り…。『毎日新聞』連載を加筆修正。

東京・中日新聞 2025/08/09

2025:7./ 342p
978-4-620-10878-0
¥2,090〔税込〕

緊縮資本主義～経済学者はいかにして緊縮財政を発明し、ファシズムへの道を開いたのか～

クララ・Ｅ・マッテイ 著
東洋経済新報社
緊縮財政は、資本主義体制を維持するための階級戦略だった! いかにして経済学者とテクノクラートが、階級支配を強化し、民主主義を形骸化させてきたかを分析し、現代社会における所得格差や経済的強制の根源を探る。

東京・中日新聞 2025/08/10

2025:8./ 430p
978-4-492-31565-1
¥3,740〔税込〕

残照 開高健～詩人・牧羊子と作家の昭和～

浜本 隆志 著
法政大学出版局
戦後高度成長期の文学を牽引した作家・開高健。妻・牧羊子との容易ならざる家庭生活、闇三部作や「珠玉」に象徴されるニヒリズム、女性たちとの秘密の関係…。開高文学を、牧羊子とのかかわりという視点から再検討する。

東京・中日新聞 2025/08/10

2025:7./ 266p
978-4-588-46027-2
¥2,970〔税込〕

過疎ビジネス(集英社新書 1273)

横山 勲 著
集英社
過疎にあえぐ小さな自治体に近づき、公金を食い物にする「過疎ビジネス」と、地域の重要施策を企業に丸投げし、問題が発生すると責任逃れに終始する限界役場の実態…。地方創生の現実を描く。『河北新報』掲載に加筆し新書化。

東京・中日新聞 2025/08/10、日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 273p
978-4-08-721373-7
¥1,100〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

現代ホラー小説を知るための 100 冊(星海社新書 348)

朝宮 運河 著

星海社

日本のホラー小説史上の重大事件が続々と発生した 1990 年代。鈴木光司「リング」が刊行された 1991 年から 2024 年までに刊行されたホラー小説から、100 冊を厳選。<併読のススメ>も加え 200 作品以上を紹介する。

東京・中日新聞 2025/08/16

2025:7./ 262p
978-4-06-540277-1
¥1,320〔税込〕

深淵のテレパス

上條 一輝 著

東京創元社

会社の部下に誘われた大学のオカルト研究会のイベントで、とある怪談を聞いた日を境に、高山カレンの日常は怪現象に蝕まれる。カレンは藁にもすがる思いで「あしや超常現象調査」の 2 人組に助けを求めるが…。

東京・中日新聞 2025/08/16

2024:8./ 254p
978-4-488-02908-1
¥1,650〔税込〕

海洋堂創世記 60 周年記念版

樫原　辰郎 著

白水社

せまい路地の奥に足を踏み入れた「僕」は、館長や専務、ボーメさんら原型師たちとともに、めくるめく日々を過ごしてゆく-。ガレージキットの聖地・海洋堂をめぐる青春グラフィティ。人気原型師たちの「その後」を追加。

東京・中日新聞 2025/08/16

2024:10./ 263p
978-4-560-09141-8
¥2,640〔税込〕

荷風の昭和<前篇> 関東大震災から日米開戦まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。前篇は、関東大震災から日米開戦までを収録する。

東京・中日新聞 2025/08/17

2025:5./ 567p
978-4-10-603927-0
¥2,860〔税込〕

荷風の昭和<後篇> 偏奇館焼亡から最期の日まで(新潮選書)

川本 三郎 著

新潮社

私娼と戯れ、軍人を「肥満豚」と呼び、昭和に抗った過激な個人主義者・永井荷風の全作品を徹底的に読み込み、昭和をまるごと描き出す文芸評論。後篇は、偏奇館焼亡から最期の日までを収録する。

東京・中日新聞 2025/08/17

2025:5./ 590p
978-4-10-603928-7
¥2,860〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

昭和 20 年生まれからキミたちへ～私たちは戦後 80 年をこう生きてきた～

稲熊均／嶋田昭浩 著

世界書院

地獄だった満州からの引き揚げ船、チェルノブイリで奏でた「ひまわり」…。落合恵子、佐高信など終戦の昭和 20 年に生まれた著名人 10 人が、おのおのの 80 年を語るインタビュー集。『東京新聞』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/08/17

2025:8./ 136p
978-4-7927-7927-6
¥1,650〔税込〕

戦争を展示する～戦争博物館の過去・現在・未来～

佐々木 真、原田 敬一、松本 彰 編

大月書店

世界の戦争博物館から 56 館を選び、設立の経緯や展示物などの概要を紹介。国威発揚、ナショナリズム、記憶の継承、文化観光化などのテーマで、変化する姿とその意味に迫る。博物館の所在地&ウェブサイトの QR コード付き。

東京・中日新聞 2025/08/23

2025:7./ 360p
978-4-272-50184-7
¥4,400〔税込〕

戦ぎらいの無敗大名

森山光太郎 著

双葉社

戦国筑後の盟主・柳川の蒲池家。嫡男の鎮漣はその気弱な性質から姫若と揶揄されて育った。日本史上ほぼ無名な男の、温和で戦国武将らしからずとも己の道を貫いた波瀾の生涯を描く。『小説推理』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/08/23

2025:7./ 324p
978-4-575-24832-6
¥1,980〔税込〕

絣の着物～壺井栄戦争末期短編集～(こはく文庫 004)

壺井栄 著

琥珀書房

戦争下の庶民の生活を描きながら、その根底に戦争への批判を滲ませる短編集。非常時における女性たちの職場での動員を描く「リンゴの頬」をはじめ、「霜月」「産衣」など全 13 編を収録する。

東京・中日新聞 2025/08/24

2025:6./ 184p
978-4-911589-16-8
¥2,420〔税込〕

ふたりの歌川～広重と国芳、そしてお栄～

武内涼 著

朝日新聞出版

私は北斎を超えたい! 情景画を得意とする広重と常識破りの奇想絵の国芳に、北斎の娘・お栄を絡めて、画に魅入られた絵師たちを活写する長篇時代小説。『小説トリッパー』連載を改題、加筆修正し単行本化。

東京・中日新聞 2025/08/30

2025:8./ 363p
978-4-02-252072-2
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

女たちの太平洋戦争(朝日文庫　あ 4-127)

朝日新聞社 編

朝日新聞出版

15 歳の手記募ります-。太平洋戦争勃発から 50 年、新聞の読者投稿欄で女性の戦争体験記を募集し、4 千におよぶ手記が集まった。子どもが産めず「非国民」の声におびえたことなど、女性たちの戦争の真実を伝える。

読売新聞 2025/08/03

2025:7./ 307p
978-4-02-262120-7
¥1,199〔税込〕

浅利慶太～劇団四季を率いた男の栄光と修羅～(集英社新書　1266)

菅 孝行 著

集英社

ショー・ビジネスの頂点にたった演劇プロデューサー・浅利慶太がたどった劇的な軌跡を、戦後日本の精神史の中に位置付ける多面的評伝。演劇界やミュージカル界を発展させた「劇団四季」の主要作品も分析する。

読売新聞 2025/08/03

2025:6./ 293p
978-4-08-721366-9
¥1,232〔税込〕

日本政治思想史(新潮選書)

原 武史 著

新潮社

天皇が今なお権力の主体であるのはなぜか。儒学・国学・超国家主義など従来の思想史に「空間」と「時間」という補助線を取り入れ、江戸時代から現代にいたる「政治の根本」、日本固有の政治思想の本質を明らかにする。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 336p
978-4-10-603929-4
¥2,035〔税込〕

ベルリン・フィル～栄光と苦闘の 150 年史～(中公新書　2856)

芝崎 祐典 著

中央公論新社

世界最高峰のオーケストラと称されるベルリン・フィルハーモニー。1882 年の創設からナチ協力、冷戦後の革新まで解説。150 年の裏面ドイツ史に耳をすまし、社会にとって音楽とは何かを問う。関連年表付き。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 296p
978-4-12-102856-3
¥1,155〔税込〕

開戦前に日本の負けはわかっていた『昭和 16 年夏の敗戦』(中公ムック　歴史と人物 23)

中央公論新社 著

中央公論新社

昭和 16 年 8 月、総力戦研究所の俊英による対米戦シミュレーションの結論は「日本必敗」だった-。猪瀬直樹「昭和 16 年夏の敗戦」を基にした NHK の映像化に合わせ、作品の精髄を紹介しつつ戦争に突き進んだ日本を検証する。

読売新聞 2025/08/03

2025:7./ 95p
978-4-12-800157-6
¥1,430〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

アンドロイドは電気羊の夢を見るか?(ハヤカワ文庫 SF)

フィリップ・K・ディック 著
早川書房
第三次大戦後、放射能灰に汚された地球では生きた動物を持っているかどうかが地位の象徴になっていた。人工の電気羊しかもっていないリックは、そこで火星から逃亡した〈奴隷〉アンドロイド八人の首にかかった賞金を狙って、決死の狩りをはじめた!

読売新聞 2025/08/03

1977:3./ 319p
978-4-15-010229-6
¥1,210〔税込〕

トラジェクトリー

グレゴリー・ケズナジャット 著
文藝春秋
日本で就職した英会話教師・ブランドン。熟年の生徒・カワムラとレッスンを続けるうち、2 人のあいだに不思議な交流が生まれ…。アメリカ出身作家が端正な日本語で描く「越境文学」。『文學界』掲載の表題作ほか全 2 編を収録。

読売新聞 2025/08/03

2025:7./ 172p
978-4-16-392012-2
¥1,980〔税込〕

イデオロギーの崇高な対象　新装版(河出文庫　シ 6-2)

スラヴォイ・ジジェク 著
河出書房新社
現代思想界に彗星のごとく現れた奇才ジジェクの、オリジナリティの萌芽が詰め込まれた代表作。難解で知られるラカン理論をあざやかに読み解き、ラカンをつうじてヘーゲル、マルクス、フロイトに新たな息吹をもたらす。

読売新聞 2025/08/03

2025:6./ 435p
978-4-309-46817-4
¥1,650〔税込〕

「稼ぐ小国」の戦略～世界で沈む日本が成功した 6 つの国に学べること～(光文社新書　1361)

関山健 著
光文社
高い「一人あたり GDP」を実現している小国には、そのガバナンス、政策方針、教育や人材育成、ビジネス環境などに共通した特徴が見られる。世界トップの生産性と競争力を築いた 6 つの小国が成功した理由を解き明かす。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 302p
978-4-334-10650-8
¥1,100〔税込〕

うさぎのしま

たての ひろし、近藤 えり 著
世界文化社
「うさぎのしま」として親しまれる広島県・大久野島。白うさぎを見た子どもの「あの子のおかあさんも、白い?」という問いが、封印された過去を呼び覚ます…。毒ガスを製造し、「地図から消された島」の過去と今をつなぐ物語。

読売新聞 2025/08/03

2025:6./ 40p
978-4-418-25826-0
¥1,980〔税込〕

ユング派精神分析の四本の柱

マリー・スタイン 著
創元社
ユングのアプローチは他のアプローチと何が違うのか。その他のさまざまな心理療法と一線を画す本質的な特徴は何なのか。ユング心理学のエッセンスを「四本の柱」に絞って抽出する。

読売新聞 2025/08/03

2025:7./ 183p
978-4-422-11843-7
¥3,080〔税込〕

ガラスの海を渡る舟(PHP 文芸文庫 て 3-1)

寺地 はるな 著
ＰＨＰ研究所
「みんな」と同じ事ができない兄と、何もかも平均的な妹。2 人は祖父の遺言をきっかけに、ともにガラス工房を引き継ぐことになり…。大阪・空堀商店街にあるガラス工房で兄妹が過ごした愛おしい 10 年間を描く。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 274p
978-4-569-90484-9
¥902〔税込〕

やくそく～ぼくらはぜったい戦争しない～(ポプラ社の絵本　104)

那須　正幹 著
ポプラ社
ばあちゃんは、ぼくのことを原爆で死んだ“にいちゃん”とまちがえる。死んだ人にまちがわれるなんて、いやだけど…。3 歳のときに広島で被爆し、生涯をかけて平和を訴え続けた児童文学作家・那須正幹が遺した物語。

読売新聞 2025/08/03

2025:2./ 32p
978-4-591-18427-1
¥1,980〔税込〕

近世の朝廷と武家政権～織豊期から幕末維新期まで～(叢書・知を究める 28)

笠谷　和比古 著
ミネルヴァ書房
天皇と将軍はどのように両立してきたのか。織豊政権-正親町天皇期から明治天皇即位までの 300 年の歴史を分析し、天皇・朝廷が武家政権といかなる関係を築き、それが人々にどう影響したのか、変化のダイナミズムを考察する。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 448p
978-4-623-09879-8
¥3,300〔税込〕

幕末維新史への招待<国際関係編>

町田 明広 編
山川出版社
そのとき欧米列強、東アジア諸国ではなにが起きていたのか? 世界の近代化は幕末の日本に何をもたらしたのか? 日本史と世界史を融合した最新研究で、幕末維新期の全体像をとらえ直す。

読売新聞 2025/08/03

2025:5./ 246p
978-4-634-15252-6
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ゲームスタディーズ～遊びから文化と社会を考える～(クリティカル・ワード)

吉田 寛、井上 明人、松永 伸司、マーティン・ロート 著
フィルムアート社
遊び、ルール、チートから、没入、アバター、物語、ゲーム実況、インタラクティビティまで。ゲームを研究する総合的な学問分野「ゲームスタディーズ」について、「理論」「キーワード」「ブックガイド」の 3 部構成で紹介する。

読売新聞 2025/08/03

2025:6./ 360p
978-4-8459-2145-4
¥2,640〔税込〕

帰れない探偵

柴崎 友香 著
講談社
「世界探偵委員会連盟」に所属する「わたし」は、ある日突然、探偵事務所兼自宅の部屋に帰れなくなった-。“帰れない探偵”が激動する世界を駆け巡る、全く新しい探偵小説。『群像』など掲載を加筆修正し単行本化。

読売新聞 2025/08/03、朝日新聞 2025/08/09、東京・中日新聞 2025/08/24

2025:6./ 299p
978-4-06-539710-7
¥2,035〔税込〕

初心生涯～私の履歴書～

鈴木　忠志 著
白水社
初心とは、どんな状況、どんな年齢になっても、その時々を初々しく新鮮に生きる境地のこと-。大自然の気候変動の渦中を「初心の人生」をめざして劇的に生きてきた、世界的演出家・鈴木忠志による回顧録。秘蔵写真も収録。

読売新聞 2025/08/03、日本経済新聞 2025/08/16

2025:6./ 276p
978-4-560-09187-6
¥2,530〔税込〕

南洋標本館

葉山　博子 著
早川書房
大正 11 年、日本統治下の台湾。陳と生田はともに植物学者を志していた。だが、養父母の期待を背負った陳は東京帝大医学部へ入学。生田が採集旅行に出かける一方、陳は陸軍軍属の技師としてニューギニア探検へと向かう…。

読売新聞 2025/08/03、日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 529p
978-4-15-210441-0
¥2,420〔税込〕

蜘蛛～なぜ神で賢者で女なのか～(講談社選書メチエ　826)

野村 育世 著
講談社
清少納言も絶賛し、神仏のお使いとして崇められた存在は、いつから嫌われ者になったのか? 人と蜘蛛の不思議な関係を貴重な図版・史料とともに丁寧に考察。日本の伝統文化の中で、蜘蛛を見る目の変遷を探る。

読売新聞 2025/08/03、毎日新聞 2025/08/09

2025:6./ 317p
978-4-06-539550-9
¥2,970〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

自選谷川俊太郎詩集(岩波文庫　緑 192-1)

谷川　俊太郎 著
岩波書店
デビュー以来、半世紀を超えて人々に愛されつづけてきた谷川俊太郎の全詩から、著者自身が 173 篇を精選。わらべうたから実験的な長編詩まで、のびやかで、リズム感あふれる言葉がここちよい詩集。

読売新聞 2025/08/10

2013:1./ 437p
978-4-00-311921-1
¥990〔税込〕

大学とは何か(岩波新書　新赤版 1318)

吉見 俊哉 著
岩波書店
いま、大学になにが可能なのか。大学を知のメディアとして捉え、中世ヨーロッパにおける誕生、近代国家による再生、明治日本への移植と戦後の再編という歴史のなかで位置づけなおす。大学の理念の再定義を試みる画期的論考。

読売新聞 2025/08/10

2011:7./ 270p
978-4-00-431318-2
¥990〔税込〕

「キノコ雲」の上と下の物語～孫たちの葛藤と軌跡～

原田小鈴／アリ・ビーザー 著
朝日新聞出版
1945 年 8 月の広島と長崎で被爆した「二重被爆者」の孫と、両方の地への原爆を投下した米爆撃機に搭乗していた軍人の孫の対話。10 年以上にわたる交流と協働を記した異色のノンフィクション。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 285p
978-4-02-252068-5
¥2,750〔税込〕

不道徳教育講座　改版(角川文庫)

三島　由紀夫 著
角川書店
大いにウソをつくべし、弱い者をいじめるべし、痴漢を歓迎すべし等々、世の良識家たちの度肝を抜く不道徳のススメ。西鶴の『本朝二十不孝』に倣い、逆説的レトリックで展開するエッセイ集、現代倫理のパロディ。

読売新聞 2025/08/10

1999:9./ 341p
978-4-04-121207-3
¥704〔税込〕

僕らは戦争を知らない～世界中の不条理をなくすためにキミができること～ハンディ版(新時代の教養)

Gakken
なぜ戦争は起こるの? 日本も昔は戦争をしていたの? 争いのない世界のために何ができるの? 戦争にまつわるギモンをやさしい言葉と図で解説する。日本の中学生とウクライナからの転校生を描いたマンガも収録。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 151p
978-4-05-206140-0
¥1,760〔税込〕

瀬越家殺人事件

竹本 健治 著

講談社

断崖絶壁を背にした屋敷に住むのは、瀬越萬堂と三人の娘、使用人たち。そこに招かれしは、探偵の納谷治楼。姉妹を誘拐するという予告が壁に殴り書きされた満堂から、犯人を突き止めてほしいという依頼だった。

読売新聞 2025/08/10

2023:11./ 48p
978-4-06-533700-4
¥3,850〔税込〕

戦下の読書～統制と抵抗のはざまで～(講談社選書メチエ　827)

和田 敦彦 著

講談社

戦時下、人々は何を読み、何を考え、何になっていったのか。子供・勤労青年・女性・兵士、農村・都市…。各階層・各地域の読書と生のリアルを、戦前・戦中になされた「読書調査」から掘り起こす。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 253p
978-4-06-540336-5
¥2,090〔税込〕

変身 改版(新潮文庫 カ-1-1)

フランツ・カフカ 著

新潮社

読売新聞 2025/08/10

2011:4./ 137p
978-4-10-207101-4
¥539〔税込〕

外務官僚たちの大東亜共栄圏(新潮選書)

熊本 史雄 著

新潮社

「無謀な構想」の本丸は軍部でも右翼でもなくエリート官僚だった! 日露戦後、外務省は変化する情勢の中で誤算を重ね無謀な秩序構想を練り上げていく。国際派エリートたちが陥った「失敗の本質」を外交史料から炙り出す。

読売新聞 2025/08/10

2025:5./ 301p
978-4-10-603926-3
¥1,980〔税込〕

幻島図鑑～不思議な島の物語～

清水 浩史 著

河出書房新社

幻のような美しき小さな島、声なき声の島、消え入りそうな島、消えた島…。日本全国 7000 の島々から、17 の美しき幻島を厳選して紹介。幻島度、面積、アクセスなどをカラー写真と共に掲載したガイド編と紀行編の 2 部構成。

読売新聞 2025/08/10

2019:7./ 287p
978-4-309-29035-5
¥1,760〔税込〕

クィア(河出文庫　ハ 5-5)

ウィリアム・S・バロウズ 著
河出書房新社
麻薬中毒者リーは「ふれあい」を求めて近づいた青年とともに究極のドラッグを探して、南米へと旅に出る…。切ない恋愛を描いた自伝的小説を 37 年ぶりに改訳。2025 年公開映画の原作。

読売新聞 2025/08/10

2025:4./ 201p
978-4-309-46813-6
¥1,100〔税込〕

翻訳はおわらない(ちくま文庫 の 19-1)

野崎 歓 著
筑摩書房
AI が高度な翻訳をしてくれる時代に、「それでも人間が翻訳をする」ことの意義はどこにあるのだろう? フランス文学の名翻訳者が、その営為の本質に迫り、言葉・文学・世界に思索をめぐらせる。

読売新聞 2025/08/10

2025:5./ 284p
978-4-480-44021-1
¥1,100〔税込〕

盲目の梟(白水 U ブックス　海外小説永遠の本棚　257)

サーデク・ヘダーヤト 著
白水社
ペルシア語文学史上に現れた「モダニズムの騎士」ヘダーヤトの狂気と厭世に満ちた代表作を含む全 10 篇の中短篇集。復刊にあたり、旅行記「エスファハーンは世界の半分」を併録する。

読売新聞 2025/08/10

2025:6./ 350p
978-4-560-07257-8
¥2,090〔税込〕

異常気象の未来予測(ポプラ新書 274)

立花　義裕 著
ポプラ社
毎年のように猛暑・豪雨・豪雪が襲い、異常気象が「普通」の時代へ突入した日本。生活はどう変化するのか? 異常気象や気候問題の現状と未来予測、温暖化対策について解説する。Q&A も掲載。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 222p
978-4-591-18624-4
¥1,012〔税込〕

サトウさんの友達

益田ミリ 著
マガジンハウス
気づけば友達が減りつつある年頃のサトウさん。職場では居心地の悪さを感じなくもない。母の健康状態にも不安を覚える日々。そんなある日、ゲーム「あつまれどうぶつの森」に出会い…。じわじわ沁みる描き下ろし漫画。

読売新聞 2025/08/10

2025:5./ 159p
978-4-8387-3325-5
¥1,540〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

幻の巨大火薬工場その実像～東京第二陸軍造兵廠坂ノ市製造所～

藤井通彦 著

弦書房

太平洋戦争勃発直前、150 万坪もの農地に忽然と現れた巨大軍需工場は、どのような経緯で建設され、戦後どう処理されていったのか。当時を知る関係者の声、米軍、旧陸軍の資料などから実相を描きだす。折り込み地図付き。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 284p
978-4-86329-310-6
¥2,420〔税込〕

戦争トラウマを生きる～語られなかった日本とアジアの戦争被害、傷ついたものがつくる平和～

黒井秋夫／蟻塚亮二 著

泉町書房

親の戦争トラウマによる暴力などで家族関係は壊れ…。日本初の「PTSD の日本兵家族会」を作った男とトラウマ診療を行う精神科医が、戦後日本社会が隠した戦争の傷と、その傷を超えてつくる民衆の平和のありようを語る。

読売新聞 2025/08/10

2025:7./ 303p
978-4-910457-08-6
¥1,980〔税込〕

ルポ戦争トラウマ～日本兵たちの心の傷にいま向き合う～(朝日新書　1007)

後藤遼太／大久保真紀 著

朝日新聞出版

戦後 80 年。元日本兵の子や孫が、ようやく語り始めた「戦争トラウマ」。過酷で悲惨な戦場を経験した元兵士たちの多くが心を壊し、壊れた心が子や孫の心もむしばんでいき…。隠された戦争の実相に迫る。

読売新聞 2025/08/10、朝日新聞 2025/08/16、毎日新聞 2025/08/16

2025:6./ 312p
978-4-02-295321-6
¥1,045〔税込〕

トーヴェ・ヤンソン～ムーミン谷の、その彼方へ～

冨原 眞弓 著

筑摩書房

トーヴェ・ヤンソンは、なぜムーミン物語を描いたのか。あのユートピアに込められた思いはなにか。いったいかれらは、誰なのか。ヤンソン研究の第一人者による評伝。

読売新聞 2025/08/10、日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 427p
978-4-480-83908-4
¥3,300〔税込〕

羽柴秀吉とその一族～秀吉の出自から秀長の家族まで～(角川選書　677)

黒田　基樹 著

KADOKAWA

羽柴(豊臣)秀吉の父親はどのような職に就いていたのか。弟・秀長の妻子はどのような人物なのか。「秀吉政権」の構造と性格を把握するうえで不可欠な一族・親族の情報を徹底検証する。

読売新聞 2025/08/17

2025:5./ 270p
978-4-04-703739-7
¥2,024〔税込〕

日ソ戦争～帝国日本最後の戦い～(中公新書　2798)

麻田 雅文 著

中央公論新社

第二次世界大戦最後の全面戦争であり、両軍の参加兵力は 200 万人超、戦後を見据え行われた日ソ戦争。新史料を駆使し、米国のソ連への参戦要請から各地での戦闘の実態、終戦までの全貌を描く。

読売新聞 2025/08/17

2024:4./ 304p
978-4-12-102798-6
¥1,078〔税込〕

帝国陸軍～デモクラシーとの相剋～(中公新書　2863)

髙杉 洋平 著

中央公論新社

日露戦争勝利の栄光、大正デモクラシーと軍縮、激しい派閥抗争、急速な政治化…。なぜ組織は暴走し、破滅したのか? 陸軍という組織を通し、軍と社会が影響を与え合った軌跡を描く。

読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 256p
978-4-12-102863-1
¥1,210〔税込〕

国際政治～恐怖と希望～　改版(中公新書　108)

高坂　正堯 著

中央公論新社

戦争という人類の「不治の病」を克服するにはどうしたらよいのか。軍縮、経済交流、国際機構などを具体的に検討しながら、国家利益やイデオロギーがからみあう現実世界を分析し、組織的に論じた国際政治の入門書。

読売新聞 2025/08/17

2017:10./ 256p
978-4-12-180108-1
¥946〔税込〕

新編現代と戦略(中公文庫　な 68-1)

永井　陽之助 著

中央公論新社

日本の国家戦略はいかにあるべきか。政治的リアリズムの立場から戦後の経済重視・軽武装路線を「吉田ドクトリン」と定義づけ、軍事的リアリストへの批判を展開した戦略論の名著。岡崎久彦による反論、永井・岡崎対論も併録。

読売新聞 2025/08/17

2016:12./ 291p
978-4-12-206337-2
¥968〔税込〕

昭和歌舞伎 女方小説集(中公文庫　な 85-1)

中村哲郎 著

中央公論新社

歌舞伎において、女性の役あるいはそれを勤める役者を指す「女方」を題材にとった小説を集成。網野菊「おもかげ」、三島由紀夫「女方」、円地文子「双面」など全 5 編を収録。文庫オリジナル。

読売新聞 2025/08/17

2025:6./ 280p
978-4-12-207666-2
¥1,100〔税込〕

一撃のお姫さま

島本 理生 著
文藝春秋
歌舞伎町が舞台のアニメ主題歌の仕事を受けた、アーティストの睡。音ゲーの配信者兼会社員の友人から、曲作りのためホストに通うことを提案され…。表題作など全5編を収録。『オール讀物』掲載を書籍化。

読売新聞 2025/08/17

2025:6./ 244p
978-4-16-391986-7
¥1,870〔税込〕

久生十蘭ラメール戦記(河出文庫　ひ 8-9)

久生 十蘭 著
河出書房新社
海軍報道班員として南方の戦地を目の当たりにし、戦争の実態を鏤骨の文体で捉えた戦争小説全16篇を収録。「第〇特務隊」「要務飛行」など、初文庫化作品も多数含む。

読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 346p
978-4-309-42202-2
¥990〔税込〕

モンテ=クリスト伯<1>(光文社古典新訳文庫　KA テ 6-1)

アレクサンドル・デュマ 著
光文社
若き船乗りエドモン・ダンテスは、美しいメルセデスとの結婚の直前、嫉妬した同僚の謀略に遭って逮捕される。島の監獄で14年にわたる禁固生活を強いられるが、ある日、他の囚人が壁を削る音に気づき…。文豪の代表作を新訳。

読売新聞 2025/08/17

2025:6./ 519p
978-4-334-10690-4
¥1,540〔税込〕

動物たちがみた戦争～戦中写真が伝える～(光文社新書　1367)

渡邉英徳、貴志俊彦、中島みゆき 著
光文社
人を支え、人を癒やし、人の犠牲となった戦時の動物たち。『毎日新聞』の貴重な戦中写真をAIと人の手によりカラー化し、「動物たちのみた戦争」の実相を伝える写真集。

読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 281p
978-4-334-10694-2
¥1,650〔税込〕

なんらかの事情(ちくま文庫　き 30-2)

岸本 佐知子 著
筑摩書房
わたしはいろんなものの運がない。たとえばスプレー運がない-。モヤッとするのに心地よい、違和感の世界へようこそ。翻訳家・岸本佐知子の頭の中を覗いているかのような、奇妙で可笑しなエッセイ集。

読売新聞 2025/08/17

2016:3./ 237p
978-4-480-43334-3
¥660〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

子どものおしゃれにどう向き合う?～装いの心理学～(ちくまプリマー新書488)

鈴木 公啓 著

筑摩書房

メイクアップ、体毛処理、ダイエット、母親の影響…。心理学の観点から、現在の日本社会における子どものおしゃれに対する意識や行動の実態、その背景にあるもの、また、そこから生じるものを読み解く。

読売新聞 2025/08/17

2025:4./ 237p
978-4-480-68520-9
¥1,034〔税込〕

路面電車の神様、～広島から宇都宮へ奇跡がつないだ 14.6 キロ～

山中利之 著

JTB パブリッシング

焼け野原の広島に希望を灯した路面電車。広島電鉄で路面電車一筋に生きてきた中尾正俊が次に挑んだのは LRT(次世代型路面電車)「宇都宮ライトレール」だった-。戦後80 年、軌道に刻まれたヒューマン・ノンフィクション。

読売新聞 2025/08/17

2025:6./ 277p
978-4-533-16609-9
¥2,090〔税込〕

誰が日本を降伏させたか～原爆投下、ソ連参戦、そして聖断～(PHP 新書1435)

千々和 泰明 著

ＰＨＰ研究所

戦争終結のために原爆投下以外の選択もありえた、日本は希望的観測からソ連の仲介に頼った、昭和天皇が東郷外相と面会した理由…。第二次世界大戦で日本が降伏した要因について、戦争終結研究の第一人者が長年の論争に挑む。

読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 243p
978-4-569-85948-4
¥1,100〔税込〕

気分はもう戦争(アクション・コミックス)

矢作　俊彦、大友　克洋 著

双葉社

読売新聞 2025/08/17

1982:1./ 334p

暗闘～スターリン、トルーマンと日本降伏～　新版

長谷川 毅 著

みすず書房

ヤルタ密約やポツダム宣言をめぐって、アメリカ国内ではどのような議論があったのか。スターリンの思惑は。日本の継戦派、和平派、さらに天皇はいかに対応しようとしたか。1945 年前後の三国間の諸相を鮮やかに描く。

読売新聞 2025/08/17

2023:5./ 728p
978-4-622-09611-5
¥6,600〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ロシアの対日政策<上>　帝政ロシアからソ連崩壊まで

斎藤　元秀 著

慶應義塾大学出版会

米国一極支配体制に対抗し、国際政治に影響力を及ぼし続ける超大国ロシア。外交文書、回顧録、先行研究などを踏まえ、ロシアの対日政策を検討する。上は、帝政末期からペレストロイカまでの対日政策とその戦略を読み解く。

読売新聞 2025/08/17

2018:1./ 368p
978-4-7664-2424-9
¥5,060〔税込〕

ロシアの対日政策<下>　新生ロシアからプーチンまで

斎藤　元秀 著

慶應義塾大学出版会

米国一極支配体制に対抗し、国際政治に影響力を及ぼし続ける超大国ロシア。外交文書、回顧録、先行研究などを踏まえ、ロシアの対日政策を検討する。下は、新生ロシア誕生から現在までの対日政策を分析し、今後の方向性を示す。

読売新聞 2025/08/17

2018:1./ 352p
978-4-7664-2425-6
¥5,060〔税込〕

「人の移動」の国際政治～東アジア冷戦体制の形成と日本華僑～

鶴園　裕基 著

晃洋書房

第二次世界大戦後の日本華僑の国際移動に関わる日台それぞれの諸制度の形成過程、およびそれに伴う各国間の外交交渉過程を検討。近代的な主権国家システムが作り出す「国境」と日本華僑との関わりを、歴史的に描き出す。

読売新聞 2025/08/17

2025:5./ 276p
978-4-7710-3967-4
¥5,500〔税込〕

差し掛けられた傘～米国の核抑止力と日本の安全保障～

佐藤　行雄 著

時事通信出版局

「抑止力」「拡大抑止」といった考え方を中心に、防衛・安全保障のための日本の政策と日米協力の発展を振り返り、将来に向けて、米国の核の傘を含む、日米同盟全体の抑止力を維持、強化していくための課題を議論する。

読売新聞 2025/08/17

2017:7./ 387p

ラーゴムが描く社会～スウェーデンの「ちょうどよい」国づくり～

鈴木賢志 著

新評論

社会全体の利益を考慮して、自分たちの取り分を決めるスウェーデンの行動規範「ラーゴム」。スウェーデンの社会システムや政治・経済・ビジネスの仕組み、先進的な環境政策などを「ラーゴム」の視点から読み解く。

読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 220p
978-4-7948-1294-0
¥2,420〔税込〕

女の信心～妻が出家した時代～(法蔵館文庫　か 10-1)

勝浦　令子　著

法蔵館

かつて、女性は尼の姿となることで妻の役割から解放され、行動の自由を手に入れた。古代から中世の女性の日常、死と死後の世界に結びついた習俗・信仰から、尼や尼寺、女性の信心の果たした社会的役割を明らかにする。

読売新聞　2025/08/17

2025:7./ 308p
978-4-8318-2703-6
¥1,540〔税込〕

勝負師孫正義の冒険<上>

ライオネル・バーバー　著

日経ＢＰ社

ソフトバンク創業者で、ソフトバンクグループの CEO を務める孫正義。東洋と西洋をつなぎ、世界の常識を破壊した男の原点とは? 『フィナンシャル・タイムズ』前編集長が、膨大な取材を元に描く伝記。

読売新聞　2025/08/17、朝日新聞　2025/08/23

2025:6./ 341p
978-4-296-12028-4
¥1,980〔税込〕

勝負師孫正義の冒険<下>

ライオネル・バーバー　著

日経ＢＰ社

ソフトバンク創業者で、ソフトバンクグループの CEO を務める孫正義。東洋と西洋をつなぎ、世界の常識を破壊した男の原点とは? 『フィナンシャル・タイムズ』前編集長が、膨大な取材を元に描く伝記。

読売新聞　2025/08/17、朝日新聞　2025/08/23

2025:6./ 317p
978-4-296-12029-1
¥1,980〔税込〕

核不拡散体制と主権不平等～核兵器独占はいかに正当化されてきたか～

濱村　仁　著

東京大学出版会

主権平等を建前とする現代国際社会において、「核兵器国」と「非核兵器国」の主権不平等を露骨に制度化している核不拡散体制は、いかに正当化されてきたのか。1945 年から現在までの政治的言説を検討し、明らかにする。

読売新聞　2025/08/17、朝日新聞　2025/08/30

2025:6./ 272p
978-4-13-036298-6
¥6,380〔税込〕

中国と台湾～危機と均衡の政治学～

松田　康博　著

慶應義塾大学出版会

「台湾有事」は起こるのか? 中国・台湾の外交と安全保障の第一人者が、両岸関係の過去から説き起こし、台湾海峡に今後起こりうる事態のシナリオ・プランニングをもとに、日本を含めた東アジアの来るべき未来を探る。

読売新聞　2025/08/17、日本経済新聞　2025/08/30

2025:7./ 448p
978-4-7664-3037-0
¥3,960〔税込〕

考古学の大発見をめぐる八つの冒険

マイケル・スコット 著

青土社

雲間に浮かぶ古代都市、世界最古の沈没船、砂漠のなかの巨大石窟、氷にとざされた王女のミイラ。政治的な思惑に翻弄され、技術的な限界に直面しつつも、あくなき探究心で時代を切り拓いてきた考古学者たちの知られざる物語。

読売新聞 2025/08/17、日本経済新聞 2025/08/30

2025:6./ 320p
978-4-7917-7713-6
¥3,520〔税込〕

ゆふすげ～歌集～

美智子 著

岩波書店

よろこび、悲しみ、ときに言葉にできない驚きや共感…。上皇后陛下美智子さまが、昭和から平成の終わりまでに詠まれ、これまで未発表だった 466 首を収録する。永田和宏による解説も掲載。

読売新聞 2025/08/24

2025:1./ 206p
978-4-00-025435-9
¥1,980〔税込〕

レ・ミゼラブル<1>　改版(岩波文庫　赤 531-1)

ユーゴー，V.（ヴィクトル） 著

岩波書店

あまりにも名高いこの不朽の名作の表題レ・ミゼラブルとは「悲惨な人々」という意味。ユーゴーは主人公ジャン・ヴァルジャンの波瀾の一生を描きつつ、貧しい民衆に寄せる限りなき愛情、そして人類社会の進歩へのゆるがぬ確信を表現したのである。

読売新聞 2025/08/24

1987:4./ 608p
978-4-00-325311-3
¥1,276〔税込〕

兵士たちの戦場～体験と記憶の歴史化～(岩波現代文庫　学術 487)

山田 朗 著

岩波書店

アジア太平洋戦争を経験した兵士たちのほとんどが鬼籍に入った。彼らが体験し、記憶として伝えようとした戦場とは、一体どのようなものだったのか。兵士たちの残した膨大な回想録をもとに、戦場の実態を描き出す。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 336p
978-4-00-600487-3
¥1,760〔税込〕

他人屋のゆうれい

王谷晶 著

朝日新聞出版

春夫おじさんが営んでいた「他人屋」を求めて、隣人たちが訪ねてくる 404 号室。部屋を勝手に出入りする“幽霊”の正体を追ううちに、一人きりだった大夢にほのかな繋がりができはじめ…。『しんぶん赤旗』連載に加筆修正。

読売新聞 2025/08/24

2025:1./ 268p
978-4-02-252020-3
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

地下鉄サリン事件はなぜ防げなかったのか～元警察庁刑事局長 30 年後の証言～

垣見隆 著
朝日新聞出版
オウム捜査の最高責任者だった元警察庁刑事局長が、「松本サリン事件」「地下鉄サリン事件」「警察庁長官狙撃事件」など一連の事件について、当時の資料やメモをもとに初めて証言。捜査の全内幕を語る。

読売新聞 2025/08/24

2025:2./ 327p
978-4-02-252031-9
¥2,090〔税込〕

国宝<上> 青春篇(朝日文庫 よ 16-6)

吉田修一 著
朝日新聞出版
1964 年元旦、俠客たちの抗争の渦中で、この国の宝となる役者が生まれた。その男、立花喜久雄は任俠の家に生まれながらも、その美貌を見初められ、上方歌舞伎の大名跡の一門へ…。

読売新聞 2025/08/24

2021:9./ 407p
978-4-02-265008-5
¥880〔税込〕

国宝<下> 花道篇(朝日文庫 よ 16-7)

吉田修一 著
朝日新聞出版
芸能界の激変期を駆け抜け、数多の歓喜と絶望を享受しながらも、芝居だけに生きてきた男たち。血族との深い絆と軋み、スキャンダルと栄光、信頼と裏切り。芸の頂点へと登りつめ、命を賭してなお追い求める夢のかたちとは…。

読売新聞 2025/08/24

2021:9./ 431p
978-4-02-265009-2
¥880〔税込〕

神都の証人

大門 剛明 著
講談社
突然、父親を奪われた少女に救いは訪れるのか? 事件の謎は、戦前から令和まで引き継がれる。世代を超えて社会の歪みと戦い続ける者たちの行き着く先とは、いったい何なのか-。『小説現代』掲載を加筆改稿。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 498p
978-4-06-539159-4
¥2,585〔税込〕

世界は基準値でできている～未知のリスクにどう向き合うか～(ブルーバックス B-2298)

永井 孝志／村上 道夫／小野 恭子／岸本 充生 著
講談社
男と女はどう線引きすべき? カスハラの定義って? 放射線、パンデミック、個人情報、昆虫食…。混迷するボーダーレスの時代、基準値に潜む驚きのからくりに迫る。「基準値のからくり」の続編。

読売新聞 2025/08/24

2025:6./ 366p
978-4-06-540158-3
¥1,320〔税込〕

巣鴨プリズン BC 級戦犯者の記録～わがいのち果てる日に～(講談社学術文庫 2874)

田嶋 隆純 著

講談社

1945 年秋に GHQ が接収し、4 千人以上の BC 級戦犯者が収容された巣鴨プリズン。国家の命で戦場に立ち、理不尽に裁かれた死刑囚の苦悶と日常を、「巣鴨の父」と敬愛された教誨師が克明に綴る。幻の第一級史料を復刊。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 228p
978-4-06-540244-3
¥1,320〔税込〕

海の聲をきく～Unforgettable Encounter～

古見 きゅう 著

小学館

世界最大の魚類・ジンベエザメ、海藻の海中林、流氷の天使・クリオネ、とぼけた表情のダンゴウオ…。地球の色、息吹、鼓動を捉え続ける水中写真家・古見きゅうの海中写真集。『ビッグコミック』連載のコラム+写真を書籍化。

読売新聞 2025/08/24

2025:8./ 122p
978-4-09-682500-6
¥3,960〔税込〕

フェアリー・テイル<上>

スティーヴン・キング 著

文藝春秋

<サイコハウス>と呼ばれる不気味な屋敷に住む老人の世話をするぼくは、家の裏手からときどき妙な音が聴こえてくることに気づく。老人が大量の黄金の粒を金庫に入れていることを知ったぼくを待っていたのは…。

読売新聞 2025/08/24

2025:4./ 318p
978-4-16-391977-5
¥4,675〔税込〕

フェアリー・テイル<下>

スティーヴン・キング 著

文藝春秋

大事な友を救うために、二つの月の輝く異世界の王国をたびするぼく。だが今や王宮は<飛翔殺手>なる者に簒奪され、王族は呪いをかけられて宮殿から追放されていた…。巨匠渾身の冒険ファンタジー大作。

読売新聞 2025/08/24

2025:4./ 327p
978-4-16-391978-2
¥4,675〔税込〕

踊りつかれて

塩田 武士 著

文藝春秋

不倫を報じられて苛烈な誹謗中傷を受け、自ら死を選んだお笑い芸人。一方、伝説の歌姫は写真週刊誌のデタラメに踊らされ、人前から姿を消した。彼らが目にした絶望とは-。『週刊文春』連載を改稿し単行本化。

読売新聞 2025/08/24

2025:5./ 471p
978-4-16-391980-5
¥2,420〔税込〕

ヨシモトオノ

吉本 ばなな 著
文藝春秋
天井の木目に小さな顔があった。何度見ても顔だった。知らないおじさんの顔…。日常の中でふと見える世界の裂け目。怖く、美しく、心の中に小さな不思議と希望の光を灯す怪談を集めた、吉本ばなな版遠野物語。全 13 編を収録。

読売新聞 2025/08/24

2025:5./ 212p
978-4-16-391984-3
¥1,760〔税込〕

やなせたかしの生涯～アンパンマンとぼく～(文春文庫　か 68-3)

梯 久美子 著
文藝春秋
自分の顔を食べさせる前代未聞のヒーロー「アンパンマン」の作者・やなせたかしは、「手のひらを太陽に」を作詞するなど、詩人としても知られる。生きることを肯定し、光にむかって歩き続けたその生涯を、評伝の名手が綴る。

読売新聞 2025/08/24

2025:3./ 269p
978-4-16-792346-4
¥770〔税込〕

そして誰もゆとらなくなった(文春文庫　あ 68-5)

朝井 リョウ 著
文藝春秋
腹痛との戦い、催眠術体験、10 年ぶりのダンスレッスン、引っ越しあれこれ…。一生懸命生きていたら生まれてしまったエピソード全 22 編を収録した、頭からっぽで楽しめるエッセイ集。文庫書き下ろしエピソードも掲載。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 373p
978-4-16-792386-0
¥825〔税込〕

ババヤガの夜(河出文庫　お 46-1)

王谷 晶 著
河出書房新社
愛ではない。愛していないから憎みもしない。憎んでないから一緒にいられる-。暴力を唯一の趣味とする新道依子は、腕を買われ暴力団会長の一人娘を護衛することになり…。バイオレンスアクション。

読売新聞 2025/08/24

2023:5./ 204p
978-4-309-41965-7
¥748〔税込〕

翻訳できない世界のことば

エラ・フランシス・サンダース、前田　まゆみ 著
創元社
インドネシア語「JAYUS」(笑うしかないくらい笑えないひどいジョーク)など、他の言語に訳すと一言では言い表せない「翻訳できないことば」を世界中から集め、感性豊かな解説と瀟洒なイラストを添えて紹介する。

読売新聞 2025/08/24

2016:4./ 111p
978-4-422-70104-2
¥1,760〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

「文明の裁き」をこえて～対日戦犯裁判読解の試み～(ちくま学芸文庫　ウ37-1)

牛村 圭 著

筑摩書房

「文明の裁き」-東京裁判をはじめとする対日戦争犯罪裁判を旧連合国はこう称した。法廷速記録など、さまざまな史料をテクストとして精読し、この「文明の裁き」の実体を追跡しながら、「文明」の本質を検討する。

読売新聞 2025/08/24

2025:6./ 464p
978-4-480-51314-4
¥1,760〔税込〕

蛍たちの祈り

町田 そのこ 著

東京創元社

山間にある小さな町の中学生、幸恵と隆之は、互いの秘密を守り合うことを決めた。15 年後、ふたりの予期せぬ再会が、家族や友人、町の人々に影響を与えていき…。『紙魚の手帖』など掲載に書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 285p
978-4-488-02929-6
¥1,980〔税込〕

12 ケ月で学ぶ現代アート入門

山本浩貴 著

美術出版社

現代アートって何? 近代美術やコンテンポラリー・アートとの違いから、政治・価値・ケアとの関係まで、現代アートを 12 のテーマで解説。インタビュー、ブックガイドも収録。Web『美術手帖』連載を加筆、再編集。

読売新聞 2025/08/24

2025:4./ 220p
978-4-568-10587-2
¥1,980〔税込〕

日・英くらべて読める山川日本史<1> 原始・古代

佐藤 信／五味 文彦／高埜 利彦 編

山川出版社

「英文詳説日本史」の英文と、その元になった高校教科書「詳説日本史」の日本語文を対置。読み比べながら英語が学べて日本史の知識まで学び直せる。1 は、原始・古代を収録。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 177p
978-4-634-59161-5
¥2,200〔税込〕

月は誰のもの?～南極、海洋、アフリカの前例に学ぶ～

A.C. グレイリング 著

柏書房

軍事的にも経済的にも注目の的である「宇宙開発」。宇宙活動を平和的に管理することは可能か? 哲学者が複雑な歴史と実際の条約を丁寧にひもときながら、「人類の共同の利益」を守るための議論の土台を考察する。

読売新聞 2025/08/24

2025:5./ 231p
978-4-7601-5629-0
¥2,530〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

世論とメディアでみる戦後日米関係～日本はこの国とどう付き合ってきたのか～

石澤 靖治 著
創成社
ニクソンショック、日米経済摩擦、安倍晋三と日米関係…。日本とアメリカとの戦後の出来事に焦点を当てながら、それぞれの時代の国民は、それらをどうとらえ、どう感じていたのかという視点で、日米関係をまとめる。

読売新聞 2025/08/24

2025:6./ 243p
978-4-7944-4092-1
¥2,420〔税込〕

マンションポエム東京論

大山顕 著
本の雑誌社
空と緑の都市に咲くあだ花か、アーバンライフの幻想か…。スペックを伝えるのではなく、雰囲気を詩的に綴ったマンション広告のコピー=ポエムに託された<東京>の正体を読む。『本の雑誌』等掲載を改稿、書き下ろしを追加。

読売新聞 2025/08/24

2025:6./ 342p
978-4-86011-604-0
¥2,970〔税込〕

杉山アナのアンチ巨人、大鵬、卵焼き～昭和を語ろう～

杉山　邦博／荒井太郎 著
大空出版
カラーテレビの普及、大相撲中継、東京オリンピック…。数々の現場に立ち会ってきた元 NHK スポーツ実況アナウンサーと、相撲ジャーナリストが、昭和と大鵬を熱く語る。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 201p
978-4-86748-014-4
¥1,650〔税込〕

島まみれ帳

ミロコマチコ 著
ブロンズ新社
家づくりや巨大台風、夜中までつづく島のお祭り、島の子どもたちとのワークショップ…。絵本作家で画家のミロコマチコが、奄美大島での濃厚な時間と、愛猫との暮らしをイラスト・写真とともに綴る。Web 連載を書籍化。

読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 223p
978-4-89309-745-3
¥1,870〔税込〕

なぜ社会は変わるのか～はじめての社会運動論～(講談社現代新書 2781)

富永 京子 著
講談社
デモにストライキ、不買運動、SNS の炎上…。社会はひとりでに変わっていくわけではない。そこには必ず「変えた」人たちがいる。社会運動はどのようにして起きるのか。気鋭の社会学者が 11 の理論をわかりやすく解説する。

読売新聞 2025/08/31

2025:7./ 259p
978-4-06-540434-8
¥1,100〔税込〕

全員タナカヒロカズ

田中 宏和 著

新潮社

「同姓同名の最大の集まり」のギネス世界記録を目標としたタナカヒロカズ運動。2022 年に達成するもすぐに記録を破られる。転んでもタダでは起きぬと国際 NGO を立ち上げるまでのルポ。『考える人』連載に加筆修正。

読売新聞 2025/08/31

2025:7./ 254p
978-4-10-356381-5
¥1,870〔税込〕

ロビンソン酒場漂流記(新潮新書 1093)

加藤 ジャンプ 著

新潮社

どの駅からも歩いて遠く、およそ商売に不向きな地にポツンと建っているのに、暖簾をくぐれば大繁盛。東京近郊にある、そんな奇跡の酒場を訪ね紹介する。『考える人』連載を大幅に加筆修正、書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2025/08/31

2025:7./ 254p
978-4-10-611093-1
¥1,056〔税込〕

文章教室(中公文庫 や 80-1)

八木義徳 著

中央公論新社

川端康成の感受性、谷崎潤一郎の描写力…。“最後の文士”とよばれた芥川賞作家が、多種多様なスタイルの名文を小説家ならではの視点で読み解き、すぐれた文章とはいかなるものかを綴る。

読売新聞 2025/08/31

2025:8./ 307p
978-4-12-207694-5
¥1,320〔税込〕

ザリガニの鳴くところ(ハヤカワ文庫 NV 1519)

ディーリア・オーエンズ 著

早川書房

家族に見捨てられながらも、広大な湿地でたったひとり生きる少女に、ある殺人の容疑がかかり…。みずみずしい自然に抱かれて生きる少女の成長と不審死事件が絡み合い、思いもよらぬ結末へと物語が動き出す。

読売新聞 2025/08/31

2023:12./ 614p
978-4-15-041519-8
¥1,650〔税込〕

ハウスメイド(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 530-1)

フリーダ・マクファデン 著

早川書房

前科持ちのミリーが手に入れた、裕福な家庭でのハウスメイドの仕事。だが、この家族は何かがおかしい…。家族にまつわる真相が明かされるや、それまでに目にしたものすべてがひっくり返る。恐怖と衝撃のエンタメ小説。

読売新聞 2025/08/31

2025:8./ 525p
978-4-15-186701-9
¥1,408〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

君たちはどう生きるか(文春ジブリ文庫　ジブリの教科書 G-1-21 21)

スタジオジブリ／文春文庫編集部 著
文藝春秋
宮崎駿が「引退宣言」を撤回し、7 年余の歳月をかけて完成させた映画「君たちはどう生きるか」。宮崎駿自身の少年時代の記憶も色濃く反映された作品を、山崎貴、塚原あゆ子、冲方丁、落合博満らが多彩に読み解く。

読売新聞 2025/08/31

2025:8./ 235p
978-4-16-812020-6
¥1,430〔税込〕

嘘つきのための辞書

エリー・ウィリアムズ 著
河出書房新社
19 世紀のロンドン。辞書編纂者ウィンスワースは、未完成の辞書にひそかに架空の項目を挿入することで日々の憂いを晴らしている。一方、現代の同社では、インターンが辞書に紛れ込んだ嘘を取り除く仕事と格闘し…。

読売新聞 2025/08/31

2023:5./ 300p
978-4-309-20880-0
¥2,750〔税込〕

私小説～作家は真実の言葉で嘘をつく～(河出文庫　か 47-1)

金原 ひとみ／尾崎 世界観／西 加奈子／高瀬 隼子／エリイ／島田 雅彦／町屋 良平／しいき ともみ／千葉 雅也 著
河出書房新社
時代が求める価値観が刻々と変化する今、インタビューやコラムでは表せない“私”の物語を、第一線の表現者たちが紡ぎ出す。尾崎世界観「電気の川」、島田雅彦「私小説、死小説」など全 9 編を収録。

読売新聞 2025/08/31

2025:8./ 333p
978-4-309-42206-0
¥1,100〔税込〕

世界経済の死角(幻冬舎新書　こ-30-1)

河野龍太郎、唐鎌大輔 著
幻冬舎
世界経済には、日本人が見落としがちな「死角」がいくつも存在する。2 人のトップエコノミストが世界経済と金融の“盲点”について、あらゆる角度から徹底的に議論。先の見えない時代を生き抜くための最強の経済・金融論。

読売新聞 2025/08/31

2025:7./ 414p
978-4-344-98780-7
¥1,320〔税込〕

ポルターガイストの囚人

上條 一輝 著
東京創元社
ポルターガイストに悩まされる人物の依頼を受けた芦屋晴子と越野草太。独自の対策により現象は収束したが、その矢先に依頼人が失踪する。晴子と越野の周囲も奇怪な現象に蝕まれ始め…。<あしや超常現象調査>シリーズ第 2 弾。

読売新聞 2025/08/31

2025:6./ 339p
978-4-488-02928-9
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

鯨肉料理

松本青山 著
農山漁村文化協会
縄文の昔から、食べるために鯨を捕ってきた日本人。たたき、なめろう、ムニエル、ショウガ焼き、竜田揚げ、鯨汁…。鯨肉の本当においしい食べ方・調理法を紹介する。

読売新聞 2025/08/31

2025:6./ 143p
978-4-540-25110-8
¥3,960〔税込〕

ウィリアム・ギブスン エイリアン 3

ウィリアム・ギブスン ／パット・カディガン 著
竹書房
「エイリアン 2」の続編の脚本家として指名されたサイバーパンクの巨匠ウィリアム・ギブスン。生き残った 4 人の運命をギブスンはどう描いたのか? 約 30 年の時を経て、ギブスン版「エイリアン 3」を完全小説化。

読売新聞 2025/08/31

2022:7./ 422p
978-4-8019-3170-1
¥2,200〔税込〕

戦後日本の形成と東アジア～「入亜」の経済・経営史～

沢井 実 著
名古屋大学出版会
戦後日本経済・産業・企業が直面した諸問題と、同時期に戦後日本が東アジアと取り結んだ経済関係の特質を検討。戦後日本の対内的側面と対外的側面を経済史・経営史の視角から統一的に理解し、その歴史的位相を考察する。

読売新聞 2025/08/31

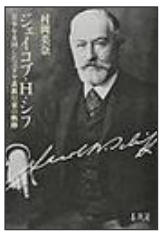
2025:6./ 496p
978-4-8158-1197-6
¥8,580〔税込〕

ラーメンと瞑想

宇野 常寛 著
ホーム社
「都市にはラーメンを食べて死ぬ自由があり、瞑想するための場所がある」 2 つの世界を往復する中年男性たちの食と思索の日々を描いた、笑えて、考えさせられて、そしてお腹が空く 12 の記録。『HB』連載を単行本化。

読売新聞 2025/08/31

2025:7./ 207p
978-4-8342-5404-4
¥1,980〔税込〕



ジェイコブ・H・シフ～日本を支持したユダヤ系銀行家の軌跡～

村岡 美奈 著
春風社
19 世紀末～20 世紀初頭の激動の時代、アメリカで最も有名で有力なユダヤ人だったシフ。その生い立ちや銀行家としての成功、アメリカ・ユダヤ社会において果たした役割等を取り上げ、日本との親交も深かった生涯を追う。

読売新聞 2025/08/31

2025:3./ 352p
978-4-86816-046-5
¥4,070〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

近代大阪の企業者群像～機械工業を中心に～

沢井 実 著
大阪大学出版会
大大阪の時代、著しい経済発展を成し遂げた要因とは何か。戦前期大阪の機械工業業界において重要な地位を築いた企業の経営実態を明らかにし、9 人の野心的な創業者のケーススタディを通して、企業発展の主体的条件を考察する。

読売新聞 2025/08/31

2025:3./ 288p
978-4-87259-836-0
¥4,840〔税込〕

聞き書 緒方貞子回顧録(岩波現代文庫　社会 319)

緒方 貞子、野林 健、納家 政嗣 著
岩波書店
1990 年代に国連難民高等弁務官として人道支援を指揮した緒方貞子。その経験から「人間の安全保障」を提起し、日本の開発援助を主導する-。戦後日本を代表する国際派知識人の生い立ちから現在までを聞き取りによって辿る。

日本経済新聞 2025/08/02

2020:3./ 372p
978-4-00-603319-4
¥1,804〔税込〕

落日燃ゆ　改版(新潮文庫　し-7-18)

城山 三郎 著
新潮社
東京裁判で絞首刑を宣告された 7 人の A 級戦犯のうち、ただ 1 人の文官であった元総理、外相広田弘毅。広田の生涯を、激動の昭和史と重ねながら抑制した筆致で克明にたどる。毎日出版文化賞・吉川英治文学賞受賞。

日本経済新聞 2025/08/02

2009:10./ 462p
978-4-10-113318-8
¥825〔税込〕

縛られた巨人～南方熊楠の生涯～(新潮文庫)

神坂 次郎 著
新潮社
日本経済新聞 2025/08/02

1991:12./ 502p
978-4-10-120912-8
¥880〔税込〕

プリンシプルのない日本(新潮文庫)

白洲次郎 著
新潮社
日本経済新聞 2025/08/02

2006:5./ 295p
978-4-10-128871-0
¥649〔税込〕

琉球処分～「沖縄問題」の原点～(中公新書　2860)

塩出 浩之 著
中央公論新社
日中の両属国家だった琉球王国を日本が強制併合した「琉球処分」。島内の組織的抵抗、清国への救援要請など併合の過程とその後を精緻に追い、清国や西洋諸国を巻き込み東アジアに新秩序をもたらした「沖縄併合」の全貌を描く。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 256p
978-4-12-102860-0
¥1,100〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

シンギュラリティはより近く～人類がAIと融合するとき～

レイ・カーツワイル 著

ＮＨＫ出版

2045年、脳はAIとクラウド接続し、知性が数百万倍に拡張する。そして人類は「生物学的限界」を超える-。これからの20年に起こるであろう、テクノロジーの指数関数的な成長がもたらす衝撃的な未来を予想する。

日本経済新聞 2025/08/02

2024:11./ 448p
978-4-14-081980-7
¥2,640〔税込〕

アラン・デュカス、美食と情熱の人生

アラン・デュカス 著

早川書房

料理学校での修業、飛行機事故、ジョエル・ロブションとの関係、日本食へのこだわり…。世界8カ国で30以上ものレストランを展開するフレンチの巨匠、アラン・デュカスによる文学性に満ちた自伝的エッセイ。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:7./ 157p
978-4-15-210426-7
¥3,300〔税込〕

川喜多長政～映画を産業に育てた日本人～

佐伯知紀 著

日経ＢＰ社

良質な洋画を輸入し、良質な邦画を輸出したい-。「東西の融和」を理想に掲げ、戦前・戦中・戦後を通して、日本映画界の地位向上に邁進した不世出の国際派映画人・川喜多長政の初の評伝。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:7./ 295p
978-4-296-12123-6
¥3,300〔税込〕

くるり駅でさよならを～白黒ねことタ暮れの町～(ハーパーBOOKS+ た1-1)

高橋由太 著

ハーパーコリンズ・ジャパン

久留里線にときどき乗っている白黒の猫が降りる「くるり駅」。ついていくと、どこか懐かしい町にもう二度と会えないはずの大切な人が待っていて…。悲しい別れから立ち直れずにいる主人公たちの心の再生を描いた連作短編集。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:7./ 300p
978-4-302-10005-7
¥819〔税込〕

価値創造する市場～テクノロジーが紡ぐあたらしい交換～

安藤　元博 著

勁草書房

市場領域の拡大は社会にとって是か否か、それはどのような論拠をもってそうであるのか。市場社会、とくにテクノロジーの進展により情報ネットワーク化された市場社会の「価値創造」機能を示す。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 384p
978-4-326-55094-4
¥4,180〔税込〕

マンガと図解でわかる世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?

ＰＥＣＯ 著

光文社

食品会社で働くさき。目標は、自分が食べたい弁当のおかずを商品化すること。ある日、新商品の社内コンペが開催されることになり…。世界のエリートがなぜ「美意識」を鍛えるのか、マンガと図解でエッセンスを解説する。

日本経済新聞 2025/08/02

2020:6./ 191p
978-4-334-95175-7
¥1,320〔税込〕

人生というクソゲーを変えるための仏教

ネルケ 無方 著

春秋社

幼少期に「なぜ生きるのか」の問いにぶつかり、坐禅と出会ったドイツ人の禅僧が、「仏教とは人生ゲームを降りるための教え」という理解から、仏教をわかりやすく解説する。『Web 春秋』連載を修正して単行本化。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 281p
978-4-393-13472-6
¥2,200〔税込〕

「主体性」はなぜ伝わらないのか(ちくま新書　1868)

武藤 浩子 著

筑摩書房

「学生に不足していると思う能力」第 1 位として指摘される「主体性」。「上司が評価してくれない」「若手は言われたことしかしない」といった互いの不満を解消し、「主体性」という曖昧で便利な言葉に込められた意味を解く。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:7./ 204p
978-4-480-07694-6
¥990〔税込〕

スターバックスを世界一にするために守り続けてきた大切な原則(日経ビジネス人文庫　ひ 9-1)

ハワード・ビーハー、ジャネット・ゴールドシュタイン 著

日本経済新聞出版社

北米地域だけで展開していたスターバックスを世界中に広めた立役者である著者が、「人を第一に考える」という企業文化を軸にして、世界一に上り詰めた軌跡と、仕事と人生で大切な 10 の原則を明かす。

日本経済新聞 2025/08/02

2015:6./ 254p
978-4-532-19765-0
¥880〔税込〕

よみがえる美しい島～産廃不法投棄とたたかった豊島の五〇年～

大川 真郎 著

日本評論社

わが国最大規模の不法投棄事件といわれる豊島産業廃棄物不法投棄事件。不法投棄に手を貸し、停止したのちの廃棄物の撤去を拒否した香川県当局と 1400 人の住民との 50 年に渡る長きたたかいを克明に綴る。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 352p
978-4-535-52858-1
¥2,860〔税込〕

革命と内戦のロシア 1917-21<上>

アントニー・ビーヴァー 著
白水社
二月革命、十月革命、反革命派の抵抗と軍事衝突、赤軍と白軍の内戦、欧米や日本の軍事介入など、物語性と学術性を兼ね備えたロシア史研究。上は、1912～17 年、1918 年を収録。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:4./ 394p
978-4-560-09163-0
¥4,290〔税込〕

革命と内戦のロシア 1917-21<下>

アントニー・ビーヴァー 著
白水社
二月革命、十月革命、反革命派の抵抗と軍事衝突、赤軍と白軍の内戦、欧米や日本の軍事介入など、物語性と学術性を兼ね備えたロシア史研究。下は、1918～21 年を収録。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 406p
978-4-560-09164-7
¥4,290〔税込〕

江戸の食商い～知恵・洒落・粋の百花繚乱～

権代 美重子 著
法政大学出版局
白米ごはんの主食化、野菜市場・魚市場の形成から名物料理の誕生、初物人気、屋台、居酒屋、料理屋、大食い大会、看板娘番付まで。江戸庶民の腹を満たし暮らしを活気づけた食の商いを、豊富なカラー図版とコラムで描く。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 318p
978-4-588-30054-7
¥2,750〔税込〕

「イスラエル人」の世界観

大治朋子 著
毎日新聞出版
長期化する、イスラエルによるガザ攻撃。なぜ世界中から非難されても、彼らは報復を止めないのか。特派員、研究者として現地に 6 年半暮らした経験を基に、歴史的経緯から紡ぎ出されるイスラエルの光と闇の世界を徹底解説する。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 317p
978-4-620-32838-6
¥1,980〔税込〕

シシになる。～遠野異界探訪記～

富川 岳 著
亜紀書房
遠野には、見えないものたちの世界がある。その扉をひらいたのが“シシ踊り”だった-。東京の広告代理店を辞め、遠野に移住した著者が、郷土芸能の現場で伝統と創造の狭間で揺れながら、文化振興に取り組む日々を綴る。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 334p
978-4-7505-1877-0
¥2,530〔税込〕

日台の「心と心の絆」～素晴らしき日本人へ～

李　登輝 著
宝島社
世界の混迷の中、日本も復活できずにいる。しかし、日本には混迷を打ち破る日本精神がある。その精神は、日本と台湾を結ぶ絆でもある-。日本精神の真髄を、元台湾総統・李登輝が明らかにする。

日本経済新聞 2025/08/02

2012:6./ 269p
978-4-7966-9704-0
¥1,760〔税込〕

超訳ブッダの言葉　エッセンシャル版

ディスカヴァー・トゥエンティワン
勝ち負けにこだわらない、自分に与えられているものに幸せを見る…。ブッダの言葉を伝えてきたとされる古い経典から、小池住職自身が気に入っている 160 フレーズを選び、誰にでもわかるよう「超訳」して紹介する。

日本経済新聞 2025/08/02

2015:11./ 1 冊(ページ付なし)

自分とか、ないから。～教養としての東洋哲学～

しんめい P 著
サンクチュアリ・パブリッシング（サンクチュアリ出版）
東大を卒業し大手 IT 企業に入社するも退職。その後、自分探しをし続けた結果、虚無感からひきこもりに。だが「東洋哲学」に出会い…。東大卒のこじらせニートが、ブッダ、老子らの東洋哲学を超訳する。note 掲載を書籍化。

日本経済新聞 2025/08/02

2024:4./ 349p
978-4-8014-0127-3
¥1,650〔税込〕

モノづくりのこころ

常盤　文克 著
日経ＢＰ社
いまこそ「モノづくりの魂」を取り戻せ!いま日本のモノづくりは大きな曲がり角にある。元花王の名経営者が日本の文化や伝統、さらには東洋の英知や思想を踏まえたモノづくりのあり方を綴る。

日本経済新聞 2025/08/02

2004:3./ 215p

アクティビズムのアート/アートのアクティビズム～「抵抗する表現」の軌跡と行方～

グレゴリー・ショレット 著
フィルムアート社
アーティストはいかにアクティビズムを実践し、アクティビズムはいかにアートとカルチャーに映し出されてきたのか。パリ五月革命からブラック・ライブズ・マターまで、歴史の表裏にあった「抵抗する表現」の足跡をたどる。

日本経済新聞 2025/08/02

2025:6./ 263p
978-4-8459-2411-0
¥2,640〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

不屈のひと～物語「女工哀史」～

石田 陽子 著
岩波書店
細井和喜蔵渾身の名著「女工哀史」の裏には共作者ともいうべき人がいた。妻トシヲである。貧しさから身を起こし各地の紡績工場を経巡り、関東大震災、西宮大空襲を潜り抜け…。戦前から戦後を貫く類まれな半生を描く評伝小説。

日本経済新聞 2025/08/02、朝日新聞 2025/08/09

2025:6./ 350p
978-4-00-061702-4
¥2,420〔税込〕

戦争特派員は見た～知られざる日本軍の現実～(講談社現代新書 2783)

貴志 俊彦 著
講談社
最前線、連絡員の死、検閲…何が写され、何が写されなかったのか。戦時下の報道体制のもとで従軍特派員が残した写真や記事を手がかりに、戦争そのものと、それを伝えた報道の実態を明らかにし、戦争の実相に多角的に迫る。

日本経済新聞 2025/08/02、朝日新聞 2025/08/23

2025:7./ 220p
978-4-06-540380-8
¥1,012〔税込〕

10 代が考えるウクライナ戦争(岩波ジュニア新書　963)

岩波ジュニア新書編集部 著
岩波書店
2022 年 2 月 24 日、ロシアがウクライナに攻撃を開始。若い世代はこの大国による軍事侵攻をどう受け止めているのか。各地の高校生たちに座談会やインタビューで率直な意見を聞き、戦争と平和について共に考える。

日本経済新聞 2025/08/09

2023:2./ 204p
978-4-00-500963-3
¥990〔税込〕

猫を処方いたします。<1>(講談社コミックスデラックス月刊少年マガジン)

石田 祥／ふじもと まめ 著
講談社
京都の路地裏の住所にあるメンタルクリニック。へらへらした医師に、キレ気味の看護師。ここで処方されるのは、なんと、猫!仕事や人間関係に行き詰った患者さんたちは、急に処方された猫を前に、てんやわんや。果たして効果は!?

日本経済新聞 2025/08/09

2025:2./ 159p
978-4-06-538450-3
¥792〔税込〕

新しい階級社会～最新データが明かす<格差拡大の果て>～(講談社現代新書 2779)

橋本 健二 著
講談社
1980 年前後に始まった日本社会の格差拡大は、すでに後戻りできないまでに固定化され、今や日本には「新しい階級社会」が成立している。2022 年の最新調査データを基に、日本社会の実態を明らかにする。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 329p
978-4-06-539903-3
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

本を守ろうとする猫の話

夏川 草介 著

小学館

高校生の夏木林太郎は、祖父を突然亡くした。祖父が営んでいた古書店をたたみ、叔母に引き取られることになった林太郎の前に、人間の言葉を話すトラネコが現れ…。『STORY BOX』掲載に書き下ろしを加える。

日本経済新聞 2025/08/09

2017:1./ 222p
978-4-09-386463-3
¥1,540〔税込〕

他人の顔 改版(新潮文庫 あ-4-1)

安部 公房 著

新潮社

液体空気の爆発で受けた顔一面の蛭のようなケロイド瘢痕によって、自分の顔を喪失してしまった男。失われた妻の愛をとりもどすために、“他人の顔”をプラスチック製の仮面に仕立てて妻を誘惑するが…。

日本経済新聞 2025/08/09

2013:9./ 350p
978-4-10-112101-7
¥781〔税込〕

記憶の鍵盤(新潮文庫 nex お-118-2)

緒乃 ワサビ 著

新潮社

ピアノの音を失いながらも懸命に生きる高 3 の歩人。想いを寄せる空手女子との関係は曖昧なまま、未来の記憶を持つという不思議な少女の導きが、歩人の運命を大きく動かし始める。未来と過去が絡み合う三角関係のゆくえは…。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:7./ 319p
978-4-10-180306-7
¥737〔税込〕

もしロシアがウクライナに勝ったら

カルロ・マサラ 著

早川書房

2028 年、ロシアがバルト三国へ侵攻。背後に中国の影-。そのとき各国はどう動くのか。アメリカ退潮後の新たな世界秩序とは。軍事・安全保障の専門家がシナリオ思考を駆使して大胆かつ詳細にシミュレートする。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 179p
978-4-15-210447-2
¥1,760〔税込〕

満月珈琲店の星詠み(文春文庫 も 29-21)

望月 麻衣 著

文藝春秋

満月の夜にだけ現れる満月珈琲店では、猫のマスターと店員が客をもてなす。訪問客の星の動きを「詠む」マスター。悩める人々を星はどう導くのか…。イラストレーター・桜田千尋の絵にインスパイアされた書き下ろし小説。

日本経済新聞 2025/08/09

2020:7./ 248p
978-4-16-791400-4
¥770〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ネオリベラル・フェミニズムの誕生

キャサリン・ロッテンバーグ 著
人文書院
「自己責任化」を促す、新自由主義的なフェミニズムの出現とは? Meta の元 COO やイヴァンカ・トランプらのエッセイ、マミー・ブログ、ドラマ等を分析し、アメリカ・フェミニズムのいまを映し出す。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 264p
978-4-409-24173-8
¥3,080〔税込〕

スマート・ライバル ビッグ・テックと戦う企業

フェン・ジュ、ボニー・インニン・ソウ 著
東洋経済新報社
従来型企業が高収益企業として生き残っていくためには、ビッグ・テック企業と「正しく戦う」必要がある。そのために経営者が持つべき 6 つの観点と、関連するさまざまな企業の事例を紹介する。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 278p
978-4-492-55144-8
¥3,080〔税込〕

トイ・ストーリー講義～もうひとつのアメリカ文化史～

川本　徹 著
平凡社
世界屈指の人気映画シリーズ「トイ・ストーリー」には、アメリカについて、映画やアニメーションについて、さらには人生について考えるヒントがつまっている。「トイ・ストーリー」の全長編をとりあげ、その魅力を論じる。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 258p
978-4-582-28270-2
¥3,080〔税込〕

学校で戦争を教えるということ～社会科教育は何をなすべきか～

角田 将士 著
学事出版
なぜ「戦争と平和」を社会科で教えることが必要なのか。社会科においてどのように教えられてきたのか。「戦争と平和」をテーマにした社会科授業づくりのポイントや、必要な視点を解説する。読書案内も収録。

日本経済新聞 2025/08/09

2023:2./ 176p
978-4-7619-2897-1
¥2,420〔税込〕

コーヒーが冷めないうちに

川口　俊和 著
サンマーク出版
結婚を考えていた彼氏と別れた女、記憶が消えていく男と看護師、家出した姉とよく食べる妹…。過去に戻れる喫茶店「フニクリフニクラ」を訪れた 4 人の女性たちが紡ぐ、家族と、愛と、後悔の物語。

日本経済新聞 2025/08/09

2015:12./ 348p
978-4-7631-3507-0
¥1,430〔税込〕

まちは暮らしでつくられる～神山に移り住んだ彼女たち～

杉本恭子 著

晶文社

清流・鮎喰川が流れる山あいのまち・徳島県神山町。このまちに 10 年近く通う著者と、移住・U ターンした女性たちによるインタビューで編まれた「神山の生活史」。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 378p
978-4-7949-7478-5
¥2,200〔税込〕

ヒロシマ調査・研究入門～原爆被害を調べる人のためのガイドブック～

広島市立大学広島平和研究所 編

ザメディアジョン

「ヒロシマ」の調査・研究の入門書。原爆被害と核に関わる現在の多彩な論点を示すとともに、広島を中心に全国各地の施設および資料、データベースを活用した調査のノウハウを紹介。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:4./ 223p

ウクライナ危機から考える「戦争」と「教育」

日本教育学会 国際交流委員会 著

教育開発研究所

戦争に対して教育は「無力」か。日本の平和教育に意味はなかったのか-。ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、これからの学校教育をどうつくっていかなければならないのか。4 人の専門家が語り尽くす。

日本経済新聞 2025/08/09

2022:10./ 168p
978-4-86560-561-7
¥1,980〔税込〕

お伽噺「桃太郎」はなぜ生まれたのか

宮川禎一 著

教育評論社

桃太郎は、なぜ桃から生まれたのか? なぜ川上から流れてきたのか? 桃太郎の作者はいったい誰なのか? 誰もが知っている日本昔話「桃太郎」の成立過程とその後の展開を、東アジアと日本の文学史的観点から検証する。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 383p
978-4-86624-117-3
¥2,420〔税込〕

炎症と人間～燃える地球と人体を癒す真の処方箋～

ルパ・マリア／ラジ・パテル 著

作品社

相次ぐ大規模火災、新型感染症の蔓延と、人体に起こる炎症はいかに繋がっているのか? 人体、社会、生態系、地球という相互に密接な関係を持つ複雑なシステムが、<植民地主義>によって負っている大きな損傷を明らかにする。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:6./ 405p
978-4-86793-094-6
¥3,960〔税込〕

満月が欠けている～不治の病・緑内障になって歌人が考えたこと～(叢書クロニック)

穂村弘 著
ライフサイエンス出版
子ども時代から目が弱かった著者が、持病である緑内障とその周辺を語ったライフストーリー。著者による「瞳を巡る短歌」の解説や、主治医との対談、長年の友人である精神科医と病気、生と死について語り合った対談を収録する。

日本経済新聞 2025/08/09

2025:7./ 250p
978-4-89775-492-5
¥2,200〔税込〕

広告の昭和～テレビ CM がやって来る!～

竹内 幸絵 著
青土社
広告の首座が名実ともに印刷媒体から電波媒体に移行した時代、昭和。名作だけではない、多くの「そのとき普通の人々の身近にあった」広告図像を元に、広告の視座から激動の昭和を問い直す。図版も多数収録する。

日本経済新聞 2025/08/09、朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 400p
978-4-7917-7719-8
¥4,950〔税込〕

アザー・オリンピアンズ～排除と混迷の性別確認検査導入史～

マイケル・ウォーターズ 著
勁草書房
スポーツにおける性別確認検査は、どのような歴史的背景の中で、誰によって、何を目的に導入されたのか。そのきっかけとなったアスリートとは誰だったのか。激動の時代に生きた選手や競技役員たちのもつれた物語を描く。

日本経済新聞 2025/08/09、読売新聞 2025/08/24

2025:6./ 342p
978-4-326-65449-9
¥3,520〔税込〕

ジェイムズ

パーシヴァル・エヴェレット 著
河出書房新社
逃亡する黒人奴隷ジェイムズを待ち受ける、地獄の旅路とは-。マーク・トウェイン「ハックルベリー・フィンの冒険」で脇役だったジェイムズを主人公に、彼の目から見た出来事や、その複雑な内面を描く。

日本経済新聞 2025/08/09、読売新聞 2025/08/31

2025:6./ 411p
978-4-309-20928-9
¥2,750〔税込〕

誰か故郷を想はざる　改版(角川文庫)

寺山　修司／鈴木成一デザイン室 著
角川書店
酒飲みの警察官と私生児の母との間に生まれて以来、家を出て、新宿の酒場を学校として過ごした青春時代を、虚実織り交ぜながら表現力豊かに描いた寺山修司のユニークな「自叙伝」。

日本経済新聞 2025/08/16

2005:3./ 205p
978-4-04-131529-3
¥572〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

昭和の消えた仕事物語(角川ソフィア文庫 J134-2)

澤宮　優 著
KADOKAWA
藍染め、洗い張り屋、貸し本屋、井戸掘り師、車力屋、畳屋…。約 120 の職に就き昭和を生き抜いた放浪詩人、高木護の生涯を軸に、消えゆく仕事と携わる人々の姿、今なお現場を守り続ける職人の思いとドラマを描き出す。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:5./ 313p
978-4-04-400861-1
¥1,320〔税込〕

死なないと、帰れない島

酒井 聡平 著
講談社
1944 年 7 月、硫黄島。強制疎開命令を受けた最後の島民たちを乗せた船が島を出た。それは一時疎開のはずだった-。散り散りになった島民たちは、なぜ今も故郷に帰れないのか。「硫黄島上陸」の著者が、この国の暗部を暴く。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 409p
978-4-06-540154-5
¥2,530〔税込〕

海の都の物語～ヴェネツィア共和国の一千年～<1>(新潮文庫)

塩野 七生 著
新潮社
日本経済新聞 2025/08/16

2009:5./ 235p
978-4-10-118132-5
¥539〔税込〕

ペリカン文書<上巻>(新潮文庫)

ジョン・グリシャム 著
新潮社
日本経済新聞 2025/08/16

1995:5./ 327p

ペリカン文書<下巻>(新潮文庫)

ジョン・グリシャム 著
新潮社
日本経済新聞 2025/08/16

1995:5./ 342p

生きる言葉(新潮新書　1083)

俵 万智 著
新潮社
日本語の足腰をどう鍛えるか。恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AI など、さまざまなシーンでの言葉のつかい方を、歌人・俵万智ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:4./ 235p
978-4-10-611083-2
¥1,034〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

クーデター～政権転覆のメカニズム～(中公新書　2864)

上杉 勇司 著
中央公論新社
昭和の動乱期から 21 世紀のグローバルサウスまで、未遂や失敗例も含め「クーデター」を幅広く検証。行動原理や成功要因を解明し、民主主義 vs.権威主義 vs.イスラム主義、ワグネルの暗躍など現代の特徴に切り込む。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 288p
978-4-12-102864-8
¥1,155〔税込〕

復讐の女神(ハヤカワ文庫)

アガサ・クリスティー 著
早川書房
日本経済新聞 2025/08/16

2004:1./ 463p
978-4-15-130045-5
¥1,078〔税込〕

男性中心企業の終焉(文春新書　1383)

浜田 敬子 著
文藝春秋
ジェンダーギャップが日本に根強く残るのはなぜか。メルカリ、富士通、キリン、丸紅など、働き方、価値観、組織を本気で変えようとする日本型企業の奮闘を、自身の体験を交えながら描き出す。

日本経済新聞 2025/08/16

2022:10./ 279p
978-4-16-661383-0
¥1,078〔税込〕

圧勝の創業経営(文春新書　1500)

安田 隆夫、入山 章栄、北尾 吉孝、似鳥 昭雄、藤田 晋 著
文藝春秋
リスクをとり、挑戦を続ける者だけが、圧倒的な勝利を手にすることができる-。ドン・キホーテ創業者が、異能の創業経営者・経営学者を相手に、熱き“知的格闘技戦”を繰り広げる対談集。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 187p
978-4-16-661500-1
¥990〔税込〕

革命の時代～1600 年から現在までの進歩と反動～<上>

ファリード・ザカリア 著
日経ＢＰ社
著名コラムニストが、現代世界を形づくった革命を振り返り、「血塗られた革命」にしないための重大な要素を浮き彫りにする。上は、名誉革命、フランス革命、イギリス産業革命など過去の革命を取り上げる。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:6./ 268p
978-4-296-12050-5
¥2,970〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

革命の時代～1600 年から現在までの進歩と反動～<下>

ファリード・ザカリア 著

日経ＢＰ社

著名コラムニストが、現代世界を形づくった革命を振り返り、「血塗られた革命」にしないための重大な要素を浮き彫りにする。下は、加熱するグローバル化、情報テクノロジー革命など現在の革命を取り上げる。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:6./ 300p
978-4-296-12051-2
¥2,970〔税込〕

午前零時の評議室

衣刀信吾 著

光文社

大学生の実帆に届いた裁判員選任の案内状。それはアルバイト先の羽水法律事務所が担当する事件だった。担当判事に呼び出された裁判員たちに異例の事態が訪れる。一方、弁護士の羽水は検察のストーリーに疑問を抱き…。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:3./ 334p
978-4-334-10592-1
¥2,090〔税込〕

プロパガンダ

ジャック・エリュール 著

春秋社

中国でも、米国でも、すべて人間はプロパガンダに晒されている-。20 世紀の大思想家が、心理学と社会学の双方からプロパガンダを分析・考察する。武田砂鉄による解説エッセイも収録。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 600p
978-4-393-33391-4
¥4,950〔税込〕

考える機械たち～歴史、仕組み、倫理-そして、AI は意思をもつのか?～

インガ・ストルムケ 著

誠文堂新光社

北欧発、社会と AI について考える本。ノルウェーの気鋭の学者が、人工知能の歴史、原理、人工知能の課題や問題点、リスクを解説。さらに未来の人工知能による倫理と価値観の問題、創造性など幅広く論じる。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:6./ 379p
978-4-416-52440-4
¥2,640〔税込〕

家庭裁判所物語

清永　聡 著

日本評論社

2019 年に 70 周年を迎える家庭裁判所。“社会の中で弱い立場の人々を支援する”という理想は、どのように受け継がれてきたのか。多くの関係者や遺族の証言をもとに、そのルーツと歴史をつづる。

日本経済新聞 2025/08/16

2018:9./ 284p
978-4-535-52374-6
¥1,980〔税込〕

広岡浅子気高き生涯～明治日本を動かした女性実業家～(PHP 文庫　な 34-13)

長尾剛 著

ＰＨＰ研究所

幕末の京都に生まれ、大阪の豪商に嫁いだ広岡浅子。実業家、教育者、キリスト教徒として八面六臂の活躍をした女傑は、いかなる人物だったのか。時代背景や女性史を踏まえて広岡浅子の人生に迫った評伝。

日本経済新聞 2025/08/16

2015:10./ 345p
978-4-569-76424-5
¥748〔税込〕

災後テレビドラマ論～震災後・コロナ禍後をどう描いてきたのか～

米倉 律 著

青弓社

東日本大震災やコロナ禍で、何が変わり/変わらなかったのか。様々な「災後テレビドラマ」を取り上げて、災禍にテレビドラマがどう向き合い、それによって何を伝えようとしたのかを明らかにし、日本社会のありようを考究する。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:7./ 248p
978-4-7872-3564-0
¥2,860〔税込〕

爆弾犯の娘

梶原　阿貴 著

ブックマン社

我が家に隠れるようにして暮らしている、青白い顔の「あいつ」。あいつは、役者でクリスマスツリー爆弾事件の犯人で私の父親だった-。指名手配された父が逃亡する中で生まれた俳優・脚本家の著者が、傷だらけの人生を明かす。

日本経済新聞 2025/08/16

2025:6./ 287p
978-4-89308-984-7
¥1,980〔税込〕

女性法曹のあけぼの～華やぐ女たち～

佐賀　千恵美 著

金壽堂出版

昭和 15 年、男尊女卑が当たり前の時代に、日本で初の女性弁護士 3 名が誕生した-。女性弁護士の黎明期を、インタビューや文献資料に基づいて記したノンフィクション。

日本経済新聞 2025/08/16

2013:4./ 267p
978-4-903762-10-4
¥1,650〔税込〕

グローバル格差を生きる人びと～「国際協力」のディストピア～(岩波新書 新赤版 2070)

友松 夕香 著

岩波書店

SNS や衛星放送で目にする豊かな暮らしを羨望し、先進国との疑念を抱くようになったアフリカ諸国の人びと。長年のフィールドワークをもとに人びとの目線で「国際協力」の神話を解体し、新たな共存の道を探る。

日本経済新聞 2025/08/16、朝日新聞 2025/08/30

2025:6./ 238p
978-4-00-432070-8
¥1,034〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

私たちに名刺がないだけで仕事してこなかったわけじゃない～韓国、女性たちの労働生活史～

京郷新聞ジェンダー企画班 著
大和書房
まともな肩書を与えられなかったために名刺を持たなかったけれど、生涯働いてきた60代、70代の女性たち。そんな“可視化されてこなかった人たち”に光を当てたインタビュー集。韓国の新聞連載記事を書籍化。

日本経済新聞 2025/08/16、東京・中日新聞 2025/08/31

2025:7./ 271p
978-4-479-39457-0
¥2,420〔税込〕

給水塔から見た虹は

窪 美澄 著
集英社
はじめてできた「ルーツ」の違う友達、母とのすれ違い-。この世界のさまざまな分断に戸惑う2人の“こども”が、少しずつ“おとな”になるひと夏を描く。『小説すばる』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/08/16、読売新聞 2025/08/24

2025:7./ 380p
978-4-08-770006-0
¥2,090〔税込〕

屍の街・夕凪の街と人と(岩波文庫　緑 237-1)

大田 洋子 著
岩波書店
広島で被爆した作家・大田洋子は、その体験をもとに原爆を告発する作品を多数著した。人や街が屍と化した原爆投下直後の惨状を記した「屍の街」、原爆に人生を壊され戦後なお苦しむ人々を描いた「夕凪の街と人と」を収録。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 588p
978-4-00-312371-3
¥1,386〔税込〕

火の昔 新版(角川ソフィア文庫 SP J-102-13)

柳田　国男 著
角川学芸出版
かつて人々はどのように火を使い、暗闇を照らしてきたのか。照明・煮炊き・暖房ほか、火にまつわる道具や風習の実例を丹念に集め、日本人の生活史を辿る。戦時下、「火の文化」の背景にある先人の苦心と知恵を見直した意欲作。

日本経済新聞 2025/08/23

2013:7./ 227p
978-4-04-408317-5
¥770〔税込〕

青の純度

篠田 節子 著
集英社
バブル時代に大衆の心を摑み、美術界からは相手にされなかった画家・ヴァレーズの原画展が行われるという。違和感を抱いた美術系編集者・有沢真由子は画家本人に取材するため単身ハワイへ…。『小説すばる』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 386p
978-4-08-771898-0
¥2,420〔税込〕

世界最大ドーナツチェーンの成功法則

ロバート・M・ローゼンバーグ 著

早川書房

世界 No.1 ドーナツチェーン「ダンキンドーナツ」の 2 代目 CEO が店の歩みとともに、「ドーナツよりコーヒーで儲ける」「セルフサービスの導入」などフランチャイズ成功の秘訣を語る。ミスター・ドーナツとの関係も記述。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:6./ 275p
978-4-15-210433-5
¥3,080〔税込〕

人間には 12 の感覚がある～動物たちに学ぶセンス・オブ・ワンダー～

ジャッキー・ヒギンズ 著

文藝春秋

同じ地球上で共に暮らし、「感覚を持つ存在」である人間を含む動物たち。個々の感覚がどのように違い、それが世界観、世界の理解の仕方にどう影響しているのか、またそれが人間にとって何を意味するのかを考察する。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 432p
978-4-16-391998-0
¥2,860〔税込〕

戦争犯罪と闘う～国際刑事裁判所は屈しない～(文春新書　1496)

赤根 智子 著

文藝春秋

ロシアによるウクライナ侵攻と、イスラエルによるガザへの非人道的な攻撃。2 つの戦争に向き合い、プーチンとネタニヤフに逮捕状を出した国際刑事裁判所のトップが、国際紛争の最前線で闘う裁判所の奮闘を語る。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:6./ 223p
978-4-16-661496-7
¥1,045〔税込〕

若者恐怖症～職場のあらたな病理～(祥伝社新書　716)

舟津 昌平 著

祥伝社

なぜ職場は“若手ファースト”になったのか。データや若者の声をもとに職場で進行している新たな問題を読み解き、背景にある社会構造と根本的な原因を指摘。よりよい組織づくりのヒントを提示する。「Z 世代化する社会」続編。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:8./ 270p
978-4-396-11716-0
¥1,056〔税込〕

心に折れない刀を持て～ジャングリア沖縄、誕生までの挫折と成長の物語～

森岡　毅 著

ダイヤモンド社

2025 年 7 月に開業するテーマパーク、ジャングリア沖縄。酷い挫折を抱えながらも、ゼロから再出発を決心した不器用な挑戦者たちが、七転八倒の末に新たなテーマパークを生み出すまでの苦闘を描く。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 431p
978-4-478-12274-7
¥1,980〔税込〕

だれが戦争の後片付けをするのか～戦争後の法と正義～(ちくま新書　1863)

越智 萌 著

筑摩書房

ロシア・ウクライナ戦争をおもな例にとりながら、戦争中からはじまる、戦争犯罪の捜査・裁判、兵士の帰還、被害者への賠償といった戦後処理の実践を紹介する「終戦後」論。「戦争の後片付け」の発展と未来について考察する。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:6./ 224p
978-4-480-07690-8
¥1,012〔税込〕

自己決定の落とし穴(ちくまプリマー新書　499)

石田 光規 著

筑摩書房

自分のことは自分で決める。本来善しとされるはずなのに、どこか疲れるのはなぜ? 他人の決めたことには、どこまで踏み込んでいい? 「自己決定」をめぐるこの社会の自縄自縛をときほぐす。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:8./ 202p
978-4-480-68530-8
¥990〔税込〕

紛争が戦争とならないために～国際法による制御の可能性～

西 平等 著

日本評論社

国際法は、紛争を抑え、収束を導くことができるのか? 18 人の国際法研究者が、紛争制御のために国際法が果たす役割を考察する。ロシア、ウクライナ、パレスティナなど、現下の紛争制御に関する論文も収録する。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:5./ 366p
978-4-535-52852-9
¥7,480〔税込〕

英国ブックセラーの歴史～出版・書店・販売～

マイケル・ロブ 著

原書房

15 世紀の印刷工房から、シェイクスピアの戯曲出版、19 世紀の文学文化、ペーパーバック革命、電子書籍、独立系書店まで、英国の書籍業界の歩みを解説。21 世紀の出版と書籍販売が直面する課題とチャンスを洞察する。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 325p
978-4-562-07555-3
¥4,620〔税込〕

死神ゲーム(双葉文庫　か-51-18)

硝子町玻璃 著

双葉社

警視庁の窓際部署に所属する倉木玲は、通り魔に刺されて致命傷を負う。いまわの際、死神と名乗る男が倉木の前に現れる。命を助けてもらう代わりに、倉木は死神の提案するゲームに付き合うことになり…。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:8./ 285p
978-4-575-52864-0
¥770〔税込〕

八重山の 1945 年

大田 静男 著
みすず書房
沖縄戦の捨て石にされ、戦場となった歌の島、神の島。島の民はいかにして軍事化の道を歩んだのか。英米軍・日本軍・住民の視点を交差させ、「八重山の戦争」を描く。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 424p
978-4-622-09776-1
¥5,500〔税込〕

コロナ対策の政策評価～日本は合理的に対応したのか～

岩本 康志 著
慶應義塾大学出版会
コロナ禍における日本の政策対応を、EBPM(合理的根拠に基づく政策形成)の視点と経済学の視点から検証。数理モデルの誤用や費用対効果の検証の軽視といった問題を鋭く指摘し、次なる危機に備えるための知見を提示する。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:6./ 280p
978-4-7664-3038-7
¥3,300〔税込〕

国際刑事法廷の「遺産」～「積極的補完性」の軌跡と展開～(シリーズ転換期の国際政治 18)

小阪 真也 著
晃洋書房
国際刑事法廷の活動成果を活動地に長期的に遺す「遺産」の形成について、特に国内における法の支配確立・強化へ向けた取り組みに焦点を当て、旧ユーゴスラヴィアやシエラレオネなどの事例から考察する。

日本経済新聞 2025/08/23

2024:3./ 184p
978-4-7710-3820-2
¥3,850〔税込〕

紅い皇帝習近平

マイケル・シェリダン 著
草思社
「習近平」とは何者なのか。言論統制と情報操作、個人崇拝による権力確立の過程を追い、私生活や家族、一族の巨額資産にも迫って、「紅い皇帝」習王朝の核心にある危険な力の実態、中国権力構造の内幕を描き出す。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 350p
978-4-7942-2788-1
¥3,850〔税込〕

到来する女たち～石牟礼道子・中村きい子・森崎和江の思想文学～

渡邊英理 著
書肆侃侃房
主に九州と山口地方におけるサークルのための交流誌『サークル村』。そこに集った石牟礼道子、中村きい子、森崎和江の 3 人が、聞書きなどの手法で切り拓いた新たな地平を、「思想文学」の視点で読み解く。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 397p
978-4-86385-678-3
¥2,640〔税込〕

屍の街～大田洋子原爆作品集～ 新版

長谷川啓 編
大田洋子 著
小鳥遊書房
1945 年、疎開先の広島で原爆に被災以後、原爆症発病の恐怖と闘いながら原爆の惨状を主題とする小説を発表し続けた大田洋子。表題作をはじめ、「半人間」など全 12 編を収めた原爆作品集。長谷川啓の新版解説付き。

日本経済新聞 2025/08/23

2024:7./ 419p
978-4-86780-054-6
¥3,300〔税込〕

人間襤褸/夕凪の街と人と～大田洋子原爆作品集～ 増補新版

長谷川啓 編
大田洋子 著
小鳥遊書房
広島で原爆に被災以後、原爆の惨状を主題とする作品を発表し続けた大田洋子の作品集。被爆後の市井に生きる人々の姿を活写した「人間襤褸」「夕凪の街と人と」、短編「半放浪」、エッセイなどを収録。遺稿を加えた増補新版。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 483p
978-4-86780-081-2
¥3,740〔税込〕

極右インターナショナリズムの時代～世界右傾化の正体～

佐原 徹哉 著
有志舎
欧米で広がる極右政党の台頭と反イスラムの風潮、ムスリム諸国での宗教右派の台頭、加速する新自由主義経済政策…。極右思想のネットワーク化とその広がりを地域横断的に分析し、世界的な「右傾化」メカニズムの解明に挑む。

日本経済新聞 2025/08/23

2025:7./ 448p
978-4-908672-84-2
¥3,740〔税込〕

現代史の起点～ソ連終焉への道～

塩川 伸明 著
岩波書店
ペレストロイカ、東欧の激動、冷戦の終焉、そしてソ連の解体へ。<いま>の世界はここから始まった-。どうしてソ連はあっけなく解体したのか。時代を画す大変動のプロセスを、多面的かつ包括的に描く。

日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 486p
978-4-00-061704-8
¥3,740〔税込〕

柳宗悦　民芸紀行(岩波文庫　青 169-5)

水尾　比呂志 編
柳　宗悦 著
岩波書店
美しい品物・良い工藝を求めて、日本各地・朝鮮・中国の民藝を訪ね歩いた柳宗悦の紀行文を中心に 19 篇を精選した民藝紀行集。『手仕事の日本』とともに日本民藝の貴重な記録。図版多数。

日本経済新聞 2025/08/30

1986:10./ 314p
978-4-00-331695-5
¥1,210〔税込〕

失われた貌

櫻田 智也 著

新潮社

山奥で、顔を潰され、歯を抜かれ、手首から先を切り落とされた死体が発見された。事件報道後、警察署に小学生が訪れ、死体は「自分のお父さんかもしれない」と言う。彼の父親は 10 年前に失踪し、失踪宣告を受けていた…。

日本経済新聞 2025/08/30

2025:8./ 297p
978-4-10-356411-9
¥1,980〔税込〕

就職氷河期世代～データで読み解く所得・家族形成・格差～(中公新書 2825)

近藤 絢子 著

中央公論新社

1993～2004 年に高校、大学などを卒業した「就職氷河期世代」の雇用形態や所得などをデータから解明。家族形成への影響や、男女差、世代内の格差、高齢化に伴う困窮について検討し、セーフティネットの拡充を提言する。

日本経済新聞 2025/08/30

2024:10./ 192p
978-4-12-102825-9
¥968〔税込〕

シン・アナキズム～世直し思想家列伝～(NHK ブックス 1295)

重田 園江 著

ＮＨＫ出版

J・ジェイコブズからグレーバー、「ねこ&森政稔」まで、思想家たちの格闘を生き生きと解説。5 人のアナキストの生き方と思想を追い、現代の問題の根源を摘出する。『本がひらく』連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 428p
978-4-14-091295-9
¥2,420〔税込〕

恐竜研究の未来～化石から見えること、見えないこと～

デイヴィッド・ホーン 著

原書房

恐竜の色は? 卵や巣の形は? どこまでわかっていて、どこからが謎なのか? 謎はどこまで解けるのか? 恐竜研究の最前線を紹介しつつ、「知っているつもり」だった恐竜像を一新する。

日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 363p
978-4-562-07553-9
¥3,850〔税込〕

「就職氷河期世代論」のウソ(扶桑社新書 542)

海老原 嗣生 著

扶桑社

「大半は就職できず、入れても零細企業」「氷河期世代だけ熟年フリーターが多い」といった就職氷河期世代像は誤り! 雇用のプロが実像を検証し、本当に効く支援策を提案する。

日本経済新聞 2025/08/30

2025:9./ 210p
978-4-594-10109-1
¥1,045〔税込〕

就職氷河期世代の経済学

永濱 利廣 著
日本能率協会マネジメントセンター
「歴史的賃上げ」でもあまり賃金が増えなかった世代をどう救う? 就職氷河期世代が生まれた背景を探るとともに、彼らの雇用・経済・生活事情を解説。現在まで続く負の経済的影響への解決策を提示する。

日本経済新聞 2025/08/30

2024:12./ 191p
978-4-8005-9289-7
¥1,870〔税込〕

ロスジェネのすべて～格差、貧困、「戦争論」～

雨宮　処凛／倉橋　耕平／貴戸　理恵 著
あけび書房
失われた世代、就職氷河期世代、貧乏くじ世代、非正規第一世代、自己責任呪縛世代、そして「戦争論」世代...。一億総中流が崩れた社会を走る 5 人の当事者たちが、ロスジェネをめぐるすべてを徹底的に語り合う。

日本経済新聞 2025/08/30

2020:2./ 244p
978-4-87154-177-0
¥1,760〔税込〕

芭蕉布物語 新版改装版

柳　宗悦 著
榕樹書林
糸芭蕉から布が織られていく工程を追うとともに、美しいものがつくられるときの不可欠の要諦を説明。芭蕉布の美しさについて独自の見解を綴る。戦後の芭蕉布復興の原点となった名著。図版、松井健の解題を附した新版。改装版。

日本経済新聞 2025/08/30

2024:9./ 113p
978-4-89805-254-9
¥2,200〔税込〕

黒いイギリス人の歴史～忘れられた 2000 年～(講談社選書メチエ　823)

平田 雅博 著
講談社
「黒いイギリス人」は歴史に激しく翻弄されながらも、忘れられた存在だった。長い歴史の中でイギリスに存在した黒人に関連する史料をとりあげて、「白いイギリス人」と女王様の国というイメージとは異なる歴史像を提示する。

毎日新聞 2025/08/02

2025:4./ 251p
978-4-06-539325-3
¥2,090〔税込〕

GOAT<2025Summer>(Shogakukan Select Mook)

朝井 リョウ、一穂 ミチ、野崎 まど 著
小学館
ただ純粋に「面白い!」と思ってもらえるような小説を届ける文芸誌。「悪」「旅」を特集し、坂崎かおるの小説、エッセイ、対談、コラム、詩、ルポなどを収録する。2026 年 6 月 30 日まで有効の購入者特典の QR コード付き。

毎日新聞 2025/08/02

2025:6./ 517p
978-4-09-802109-3
¥510〔税込〕

基軸通貨ドルの落日～トランプ・ショックの本質を読み解く～(文春新書 1503)

中野 剛志 著

文藝春秋

トランプの目的は関税措置ではなく、国際経済システムを再編すること。現在の経済システムの構造、それを生み出した潮流を踏まえ、これから到来する「覇権国家なき世界」のかたちを考察する。

毎日新聞 2025/08/02

2025:7./ 222p
978-4-16-661503-2
¥990〔税込〕

「野口体操」ふたたび。(基礎から身につく大人の教養)

羽鳥 操 著

世界文化社

東京藝術大学に体育教官として着任した野口三千三によって創始された「野口体操」。「ゆらゆら」「にょろにょろ」ヘンな体操が身体感覚を覚醒させる! 野口が体操を編み出すに至った経緯や、レッスンの過程や魅力を伝える。

毎日新聞 2025/08/02

2022:3./ 254p
978-4-418-22406-7
¥1,760〔税込〕

写真が語る敗戦と占領(ちくま新書　1867)

太平洋戦争研究会 著

筑摩書房

80 年前の占領下日本は、どんな地獄を見て、何を糧に生き抜いたのか。サンフランシスコ平和条約締結によって国際社会に復帰するまで、焦土から復活へと向かう混沌と激動の日本の姿を、貴重な写真とともにたどる。

毎日新聞 2025/08/02

2025:7./ 286p
978-4-480-07691-5
¥1,320〔税込〕

沈黙の咆哮

貫田晋次郎 著

毎日新聞出版

1993 年に埼玉県北部で起きた、愛犬家連続殺人事件。4 人の男女が次々と毒殺され、世間を震撼させた事件に挑んだ伝説の捜査官が、「死体なき連続殺人事件」の捜査、裁判、立証のリアルを語る。

毎日新聞 2025/08/02

2025:6./ 276p
978-4-620-32835-5
¥1,980〔税込〕

理想の辞書を求めて～学習者にほんとうに役立つ辞書とは～

石黒　圭 編
野田　尚史／鈴木　智美／サンキュー　タツオ／岩崎　拓也／佐野　彩子／吉　甜／砂川　有里子／塩田　雄大／飯間　浩明／松下　達彦／木下　瞳／小林　ミナ／柏野　和佳子／五味　政信／李　羽喆 著
明治書院
「調べても意味がわからない」 その原因は学習者ではなく辞書かもしれない。辞書を日本語学習者が日本語の文章を読むのに役立つものにするためには、どうすればよいか。言語研究の第一人者たちが描く「理想の辞書」への挑戦。

毎日新聞 2025/08/02

2025:5./ 239p
978-4-625-43456-3
¥5,500〔税込〕

続ける力～ヴァイオリンが教えてくれた 20 の秘訣～

千住 真理子 著
ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
どうやって続けるのか。続ける先に何があるのか-。デビュー50 周年を迎えたヴァイオリニストが、何かを続けようと頑張っている人に向けて、継続するための 20 の秘訣を語る。年代別「続ける力」を育てる秘訣も収録。

毎日新聞 2025/08/02

2025:5./ 189p
978-4-636-11995-4
¥2,200〔税込〕

ミュージックシティで暮らそう～音楽エコシステムと新たな都市政策～

シェイン・シャピロ 著
黒鳥社
音楽を“社会のインフラ”ととらえ、まちづくりの戦略に音楽を取り入れる方法を解説。世界各都市と実際に取り組んできた政策やプロジェクトを紹介しながら、都市に音楽が根づくための条件をひもとく。

毎日新聞 2025/08/02

2025:7./ 341p
978-4-910801-02-5
¥3,080〔税込〕

昭和 20 年 8 月 15 日～文化人たちは玉音放送をどう聞いたか～(NHK 出版新書　744)

中川 右介 著
ＮＨＫ出版
鋭敏すぎるほどの感性を持ち合わせた者たちは、「昭和 20 年 8 月 15 日」をどう生きたのか。作家、映画監督、俳優、音楽家、歌舞伎役者、マンガ家ら総勢 135 人の敗戦体験を、膨大な資料に基づいて描き出す。

毎日新聞 2025/08/02、産経新聞 2025/08/17

2025:6./ 363p
978-4-14-088744-8
¥1,265〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

日本群島文明史(ちくま新書　1864)

小倉 紀蔵 著

筑摩書房

アニマシズム、かみ、ことだま、性のアニマシー…。日本の基層にある「群島文明」こそが、この国の独自性を創出してきた。思想、宗教、文学など諸領域を博捜して描く斬新な日本文明全史。

毎日新聞 2025/08/02、東京・中日新聞 2025/08/31

2025:6./ 510p
978-4-480-07695-3
¥1,540〔税込〕

1945 年に生まれて～池澤夏樹語る自伝～

池澤 夏樹、尾崎 真理子 著

岩波書店

父・福永武彦との関係、デビュー以前の下積みの日々、地球の未来について…。昭和 20 年 7 月 7 日に生まれ、戦後とともに歩み、考えてきた作家・池澤夏樹が、いま初めて人生と創作のすべてを明かす。

毎日新聞 2025/08/02、読売新聞 2025/08/17

2025:7./ 328p
978-4-00-061705-5
¥2,860〔税込〕

自分は「底辺の人間」です～京都アニメーション放火殺人事件～

京都新聞取材班 著

講談社

2019 年に起きた京都アニメーション第 1 スタジオへの放火殺人事件。「底辺の論理」によって罪を犯したと話す被告と、極限の悲しみ、苦しみに直面した遺族と向き合った記録。『京都新聞』の連載をもとに書籍化。

毎日新聞 2025/08/02、日本経済新聞 2025/08/30

2025:7./ 253p
978-4-06-540304-4
¥1,870〔税込〕

金沢浅野川雨情

城山真一 著

光文社

金沢で人気の芸妓・なつ江が殺された。聞き込みを続ける金沢東部警察署の小豆沢玲子は誰もが抱えている後継者問題や家族の悩みに寄り添いつつ、徐々に事件の核心に近づいていく-。『ジャーロ』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/08/04

2025:7./ 508p
978-4-334-10716-1
¥2,420〔税込〕

となりの陰謀論(講談社現代新書　2778)

烏谷 昌幸 著

講談社

トランプは「闇の政府」と戦っている? オバマもバイデンもすでに処刑された? 陰謀論はどこで生まれるのか。なぜ信じてしまうのか。現代世界を蝕む「病」の正体を、気鋭のメディア研究者が明かす。

毎日新聞 2025/08/09

2025:6./ 206p
978-4-06-540135-4
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

相談するってむずかしい

青山 ゆみこ／細川 貂々 著
集英社
発達障害による困りごとや、生きづらさを語り合う場を主催する細川貂々と、心身の不調をきっかけに目的を持たない対話の場を作った青山ゆみこ。「相談する」ことの大切さに気づいたふたりがつづる、話して、聞いた日々のこと。

毎日新聞 2025/08/09

2025:8./ 199p
978-4-08-788120-2
¥1,870〔税込〕

地図のない道(新潮文庫)

須賀　敦子 著
新潮社
毎日新聞 2025/08/09

2002:7./ 177p
978-4-10-139222-6
¥473〔税込〕

テレビが終わる日(新潮新書　1091)

今道 琢也 著
新潮社
広告収入はネットの半分に落ち込み、まったくテレビを見ない若者が急増し、就活人気ランキングでは 100 位圏外。凋落が止まらないテレビ局の「未来」を、データを駆使して徹底分析する。

毎日新聞 2025/08/09

2025:6./ 191p
978-4-10-611091-7
¥968〔税込〕

大日本いじめ帝国～戦場・学校・銃後にはびこる暴力～

荻上チキ／栗原俊雄 著
中央公論新社
戦時下、いじめは大量生産されていた-。兵士、子ども、銃後の人々は、いかなる差別・暴力に晒されたのか。自殺率世界一の日本軍、牢獄のごとき学童疎開…。証言者たちの実体験と時代背景を整理し、陰惨さの実相に迫る。

毎日新聞 2025/08/09

2025:7./ 215p
978-4-12-005928-5
¥1,870〔税込〕

無名兵士の戦場スケッチブック～砲弾と飢餓と鎮魂～

砂本 三郎 著
筑摩書房
激戦の中国戦線、多くの餓死者を出した南方の島…。一人の庶民・砂本三郎が体験した、陸軍一兵卒としての過酷な戦場体験を描いた鮮烈な 130 枚のスケッチを収める。渡辺考の解説も掲載。

毎日新聞 2025/08/09

2025:7./ 207p
978-4-480-81866-9
¥3,080〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

人マニア～ノベルアンソロジー～(HOWL Novels は-01-01)

アンソロジー 著

一迅社

SF、恋愛、青春、ミステリー…。話題の作家たちが、独自の解釈で「人マニア」を描くアンソロジー。斜線堂有紀「うん」、岩倉文也「ここから見える海はぜんぶ偽物」など全７編を収録する。

毎日新聞 2025/08/09

2025:7./ 179p
978-4-7580-2946-9
¥1,320〔税込〕

みえないもの

イリナ グリゴレ 著

柏書房

娘たちと過ごす青森の日々、ふとよみがえる故郷ルーマニアの記憶、そして、語られてこなかった女たちの物語-。虚実を超えて、新たな地平を切り開く渾身のエッセイ集。『水牛』ほか掲載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2025/08/09

2025:4./ 237p
978-4-7601-5630-6
¥1,980〔税込〕

原爆ヒロシマ～きり絵画文集～

寺尾知文 著

潮書房光人新社

巨大なキノコ型の雲が、ぶきみにふくらんで、高く高く舞い上がった。まさかその中に、ヒロシマの町のすべてと、二十数万の人の命とが呑み込まれようとは知らなかった-。著者が見、聞いた原爆の図をきり絵で描き残した画文集。

毎日新聞 2025/08/09

2025:6./ 103p
978-4-7698-1718-5
¥2,420〔税込〕

知れば知るほどおもしろいお米のはなし～ルーツから歴史、抱える課題まで～(知的生きかた文庫 か 77-1)

柏木　智帆 著

三笠書房

コシヒカリが圧倒的な人気を誇る理由とは? 「減反廃止」は本当? 農家も輸入米を食べていた? お米を偏愛する著者が、お米の歴史・品種・文化や、驚きのエピソードを語る。

毎日新聞 2025/08/09

2025:5./ 205p
978-4-8379-8923-3
¥847〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

猫にご用心～知られざる猫文学の世界～

大久保ゆう 編
ウィリアム・ボールドウィン、ウィリアム・クーム、ジョン・ダンロップ、マリオン・フローレンス・ランシング、アビー・モートン・ディアズ　、モード・D・ハヴィランド 著
日本印刷（株）　出版・メディア事業部
現実と噂話が錯綜しながら、魔術や宗教の話題が入り乱れ、人間たちの滑稽な姿が猫の目を通して描かれる世にも不思議な怪奇小説「猫にご用心」。さらに、そこから派生した知られざる猫文学も同時収録。

毎日新聞 2025/08/09

2025:3./ 231p
978-4-910681-00-9
¥2,420〔税込〕

アメリカの新右翼～トランプを生み出した思想家たち～(新潮選書)

井上 弘貴 著
新潮社
アメリカの左右両極の間で起きた思想戦争の内幕を追いながら、テック右派、宗教保守、ネオナチなどの思想家たちが、なぜリベラルな価値観を批判し、社会をどのように作り変えようとしているのかを読み解く。

毎日新聞 2025/08/09、産経新聞 2025/08/31

2025:6./ 205p
978-4-10-603932-4
¥1,705〔税込〕

根も葉もある植物のはなし～その多様なすがた・かたちについて～

塚谷 裕一 著
山と渓谷社
楠の葉のダニ室、レース状に広がる純白の花弁…。散歩で見かける身近な植物から、植物園や旅先で遭遇した珍奇植物まで、植物の見た目に焦点をおいて多様な面白さを紹介。『Visual Dermatology』連載を抜粋。

毎日新聞 2025/08/09、読売新聞 2025/08/10、朝日新聞 2025/08/23

2025:7./ 253p
978-4-635-06371-5
¥1,980〔税込〕

新しいリベラル～大規模調査から見えてきた「隠れた多数派」～(ちくま新書　1861)

橋本 努／金澤 悠介 著
筑摩書房
21 世紀以降の日本のリベラルがどのような変遷をたどったのかを分析するとともに、7000 人を対象とする社会調査から、日本において最多数を占めることが明らかとなった「新しいリベラル」の実態と可能性を探求する。

毎日新聞 2025/08/09、読売新聞 2025/08/31

2025:6./ 350p
978-4-480-07692-2
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

彼方へ～歌集～

恒成　美代子 著
KADOKAWA
石椅子に座つて水面見る人はかの日の病室のをつとのやうだ 済みたるを消して書き足す予定表もうぢき八十歳これから余生 2021 年半ばから 2024 年 12 月までの作品を収めた第 10 歌集。

毎日新聞 2025/08/11

2025:5./ 208p
978-4-04-884644-8
¥2,860〔税込〕

水柿～片山由美子句集～

片山由美子 著
ふらんす堂
開かるること待つ扉大旦 羽子板の裏絵にも負け庭の松 十月や永久に誕生月として 2019 年 1 月から 2024 年 12 月までに発表した 389 句を収めた第 7 句集。季語索引付き。

毎日新聞 2025/08/11

2025:7./ 242p
978-4-7814-1757-8
¥3,080〔税込〕

鷗外の甍～歌集～(かりん叢書 第 447 篇)

坂井修一 著
短歌研究社
重力が水の分子をひきおろす音澄みやまね漏刻の朝 むつかしきことは学者のわれがやるただ葦であれ歌詠みわれは 春蟬が過ぎ熊蟬が啼きそめぬこの坪庭に初の猛暑日 2021～2025 年の 507 首を収録した第 13 歌集。

毎日新聞 2025/08/11

2025:4./ 201p
978-4-86272-800-5
¥3,300〔税込〕

炎昼～玉城洋子歌集～(紅叢書 第 37 篇)

玉城　洋子 著
コールサック社
風は凪ぎ辺野古の海のブイの音耳底深く悲しみて聞く 諦めぬ沖縄の米基地還るまで子孫に残さぬ戦の苦しみ 辺野古に関する短歌を発表し続けてきた玉城洋子の第 8 歌集。

毎日新聞 2025/08/11

2025:4./ 191p
978-4-86435-636-7
¥2,200〔税込〕

おみやげと鉄道～「名物」が語る日本近代史～(講談社学術文庫　2858)

鈴木 勇一郎 著
講談社
赤福の誕生と伊勢参宮、北海道名物バナナ饅頭の謎と帝国日本の拡大、新幹線が発展させたひよ子…。近代日本における、おみやげと名物の形成、その変容の歴史を追い、鉄道を筆頭とする近代の装置との関わりを明らかにする。

毎日新聞 2025/08/16

2025:2./ 285p
978-4-06-538323-0
¥1,331〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ミウラヒロシマ

三浦 憲治 著
小学館
あの日から続いて“今”の広島がある-。被爆二世の写真家・三浦憲治が、故郷=広島に思いを馳せ、撮り続けた写真プロジェクト「ミウラヒロシマ」。その膨大な写真の中から 108 枚を厳選し収録する。

毎日新聞 2025/08/16

2025:7./ 180p
978-4-09-682495-5
¥4,950〔税込〕

天文台日記(中公文庫)

石田　五郎 著
中央公論新社
岡山天体物理学観測所の副台長であった著者による天文台日記。星に憑かれた天文学者たちの天文台での観測生活が、その息遣いとともに感じ取れる一冊。

毎日新聞 2025/08/16

2004:1./ 268p
978-4-12-204318-3
¥1,100〔税込〕

日中外交秘録～垂秀夫駐中国大使の闘い～

垂 秀夫 著
文藝春秋
中国共産党内に裏人脈を張り巡らせ、機密情報を誰よりも早く入手し、理不尽な恫喝に屈しない…。異能の外交官、垂秀夫駐中国大使が明かす秘話満載の回顧録。習近平時代を読み解く 3 つの視座、台湾有事の本当の意味とは?

毎日新聞 2025/08/16

2025:6./ 542p
978-4-16-391987-4
¥2,750〔税込〕

普通の組織～ホロコーストの社会学～

シュテファン・キュール／田野 大輔 著
人文書院
ナチ体制下で普通の人びとがユダヤ人の大量虐殺に進んで参加したのはなぜか。ブラウニングが先鞭をつけたこの問いをさらに掘り下げ、殺戮部隊を駆り立てた様々な要因の働きを組織社会学の視点から解明する。

毎日新聞 2025/08/16

2025:4./ 437p
978-4-409-24169-1
¥6,600〔税込〕

このクソみたいな社会で“イカれる”賢い女たち～理解されない苦しみ、女性のうつ病～

ハ・ミナ 著
明石書店
なぜ女たちは憂うつなのか? うつ病を患う 20、30 代の女性へのインタビューから憂うつの断片を集め、「うつ病」という名の苦しみを当事者の言葉で再定義。医学的定義やスティグマを超えて、女性の苦痛の新しい歴史を描く。

毎日新聞 2025/08/16

2025:5./ 309p
978-4-7503-5945-8
¥2,420〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

世界のペンギン～18 種類の野生ペンギンと出会う旅～

アーシュラ・クレア・フランクリン 著
グラフィック社
イルカのように海で跳ねるアデリーペンギン、行水するミナミイワトビペンギン…。世界に生息する野生ペンギン 18 種すべての特徴や生態を、奇跡のような写真と優しい筆致で紹介。気候変動や人間活動による影響にも言及する。

毎日新聞 2025/08/16

2025:6./ 239p
978-4-7661-3963-1
¥3,190〔税込〕

可視化される差別～統計分析が解明する移民・エスニックマイノリティに対する差別と排外主義～

五十嵐 彰 著
新泉社
差別とは何か? どのように捉えればいいのか? 差別を「可視化」し、その実態を明らかにするための研究をもとに、差別の正体とその原因、そして差別が当事者に何をもたらすのかを明らかにする。

毎日新聞 2025/08/16

2025:2./ 432p
978-4-7877-2418-2
¥3,850〔税込〕

香りの起源を求めて～香水を支える植物 18 の物語～

ドミニーク・ローク 著
築地書館
香りの原料はどのように栽培・生産・調達されているか。またそこに潜む社会問題とは。すばらしい香水を作るための天然成分を見つけるべく世界中を旅した香粧品企業の元香水原料調達責任者が、香りの奥深き世界を解き明かす。

毎日新聞 2025/08/16

2025:5./ 286p
978-4-8067-1685-3
¥2,640〔税込〕

図説豊臣秀長～秀吉政権を支えた天下の柱石～

河内将芳 著
戎光祥出版
兄・豊臣秀吉との絆で天下取りを成し遂げた豊臣秀長。若い頃から戦場を駆け回り、秀吉に最も信頼された天下一の“懐刀”としての実像を、多数の図版とともに最新研究でひもとく。

毎日新聞 2025/08/16

2025:5./ 166p
978-4-86403-575-0
¥2,200〔税込〕

エモさと報道(ゲンロン叢書 017)

西田 亮介／大澤 聡／武田 徹／山本 章子／東 浩紀／江川 紹子／大治 朋子／外山 薫 著
ゲンロン
旧弊なメディアに No を叩きつけ、激震を起こした「エモい記事」論争。大手全国紙に提言を行った著者に返ってきたのは驚くべき反応だった-。書き下ろし論考に加え、江川紹子らとの対話を通して、この国の報道の未来を考える。

毎日新聞 2025/08/16

2025:7./ 227p
978-4-907188-62-7
¥2,200〔税込〕

シカバン札幌<映画>生活史 1975-2024

門脇 繁 著

寿郎社

中学生だった 1975 年から 50 年間、札幌の映画館や試写会場に足繁く通い、封切映画のベストテンをノートにつけ続けた映画狂歯科医が綴る、映画まみれの半生記。勤務するクリニックのホームページに掲載したコラムも収録。

毎日新聞 2025/08/16

2025:6./ 361p
978-4-909281-70-8
¥2,420〔税込〕

あさみどりの引っ越し日～アン・ドヒョン詩選集～(セレクション韓・詩 06)

五十嵐真希 編

アン・ドヒョン（安度昡　안도현） 著

クオン

風が吹くわけは 一本のポプラのためだ ポプラの葉の数千、数万枚が 自分のからだをのけぞらせたり ひっくりかえしたりするためだ(「風が吹くわけ」より) 韓国語で紡がれた作品を翻訳した詩集。

毎日新聞 2025/08/16

2025:6./ 194p
978-4-910214-72-6
¥2,420〔税込〕

不死

西尾康之 著

くま書店

不死が当たり前となった未来社会で、人間存在の孤独、愛、身体、倫理、社会、そして宇宙への旅立ちを描く物語。陰刻鋳造という特殊技法で彫刻を制作し、虚無をテーマとした作品を発表している現代美術家による長編 SF 叙事詩。

毎日新聞 2025/08/16

2025:7./ 373p
978-4-9912756-7-8
¥3,300〔税込〕

ケアと編集(岩波新書　新赤版 2063)

白石 正明 著

岩波書店

与えられた問いの外に出てみれば、弱さは克服すべきものじゃなく、存在の「傾き」として不意に輝きだす-。医学書院「ケアをひらく」シリーズの名編集者が、自分を変えずに生きやすくなる逆説の自己啓発術を紹介する。

毎日新聞 2025/08/23

2025:4./ 254p
978-4-00-432063-0
¥1,056〔税込〕

検証 安保法制 10 年目の真相～「仙台高裁判決」の読み方～(朝日新書 1013)

長谷部 恭男、棚橋 桂介、豊 秀一 著

朝日新聞出版

2015 年の安保法制をめぐる違憲訴訟は全敗。しかし 2023 年 12 月の仙台高裁判決は初の憲法判断に踏み込む。その内容には原告側も驚く論理が隠されていた。急逝した裁判長の真意と今後を第一人者が読み解く。

毎日新聞 2025/08/23

2025:7./ 248p
978-4-02-295325-4
¥990〔税込〕

城の崎にて・小僧の神様　改版(角川文庫　し 21-1)

志賀　直哉 著
角川書店
秤屋ではたらく小僧の体験をユーモアたっぷりに描く「小僧の神様」、作者自身の経験をもとに綴った「城の崎にて」など、志賀直哉の代表的な短篇作品を収録。

毎日新聞 2025/08/23

2012:6./ 215p
9784041003343

波と景

落合　陽一 著
KADOKAWA
芸術とは、自然観を更新しながら人生の機微を見つめ、その視座を作品に彫刻し続ける旅である-。境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに展開するメディアアーティスト・落合陽一の初作品集。

毎日新聞 2025/08/23

2025:7./ 175p
978-4-04-112650-9
¥7,480〔税込〕
9784041126509

みんなが手話で話した島(ハヤカワ文庫 NF 594)

ノーラ・エレン・グロース 著
早川書房
アメリカ・ボストンの南に位置するマーサズ・ヴィンヤード島。遺伝性の聴覚障害のある人が多いこの島では、誰もがごく普通に手話を使って話していた。障害、言語、共生社会とは何か深く考えさせるフィールドワーク。

毎日新聞 2025/08/23

2022:10./ 292p
978-4-15-050594-3
¥1,188〔税込〕
9784150505943

ミュージカルの「現在」～変容するトニー賞～

小山内 伸 著
河出書房新社
トニー賞は今日的な問題意識の高いシリアスな作品に贈られる傾向が高まっている。トニー賞受賞作の魅力を鋭利な分析で読み解き、過去 15 年の東京公演の傑作も網羅する。

毎日新聞 2025/08/23

2025:7./ 377p
978-4-309-03979-4
¥2,970〔税込〕
9784309039794

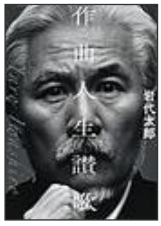
雨上がりの君の匂い

セドリック・サパン＝ドフール 著
河出書房新社
人生を素晴らしいものにする決定的な出会いは、味気ない日々にいきなり起こる-。「飼い主募集」の広告を見て、一匹の犬を飼い始めた著者が、人間と犬の種を超えた結びつきと、かけがえのない時間を振り返る普遍の愛の物語。

毎日新聞 2025/08/23

2025:6./ 245p
978-4-309-20927-2
¥2,640〔税込〕
9784309209272

MARUZEN-YUSHODO

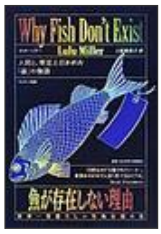


作曲人生讃歌

2025:7./ 286p
978-4-636-11794-3
¥2,750〔税込〕

岩代太郎 著
ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
映画「レッドクリフ」から、NHK 連続テレビ小説「あぐり」、アニメ、ゲームまで、あまたの映像音楽を手掛けた作曲家・岩代太郎。サウンドトラックに人生を捧げた男が、音楽に導かれた半生や、作品制作の背景などを綴る。

毎日新聞 2025/08/23



魚が存在しない理由～世界一空恐ろしい生物分類の話～

2025:3./ 384p
978-4-7631-4178-1
¥2,310〔税込〕

ルル・ミラー 著
サンマーク出版
19 世紀末、生涯をかけて魚類を収集・分類した科学者デイヴィッド・スター・ジョーダン。科学への深い執着、殺人の影、分類することへの限りない欲望…。気鋭のジャーナリストが、その生涯を掘り起こす。

毎日新聞 2025/08/23

ことばの劇場

2025:7./ 427p
978-4-8460-2507-6
¥4,180〔税込〕

長谷部浩 著
論創社
50 余年にわたる演劇紀行と演劇人との交流、歌舞伎から現代演劇まで幅広いジャンルを論じてきた著者による、演劇批評集成。人名、作品名、劇場・劇団名索引付き。『悲劇喜劇』『文學界』掲載を書籍化。

毎日新聞 2025/08/23

プリズンブレイク脱獄～詩集～

2025:6./ 189p
978-4-86385-676-9
¥2,970〔税込〕

北川 透 著
書肆侃侃房
それでよい それがよい やがて 漂う雲の切れ目から 陽が出れば 自然に 消えていく 絶えていく 死の沈黙で溢れる 今日の始まり(「破片」より) 詩集。装幀家・毛利一枝の写真も収録。『鯨々』掲載などを単行本化。

毎日新聞 2025/08/23

世界の多様性～家族構造と近代性～ 普及版

2025:5./ 567p
978-4-86578-463-3
¥3,630〔税込〕

エマニュエル・トッド／荻野 文隆 著
藤原書店
意識的なイデオロギー以上に、無意識に働く家族をめぐる規制とタブー。宗教・無意識と近代性の連関を見るウェーバーやフロイトの慧眼を、非西洋中心主義的に捉え直し、家族構造から各地の多様性に迫る。

毎日新聞 2025/08/23

MARUZEN-YUSHODO

作文(100 min.NOVELLA)

小山田 浩子 著

Ｕ－ＮＥＸＴ

家族に戦争体験を聞く宿題を夏休みに課された慶輔は祖父の経験を提出した。慶輔の同級生、夏目苑子は祖母の体験をまとめ、慶輔に「ウソなろうが」と糾弾される。時は移り 2024 年、苑子はパレスチナ問題に興味を持ち…。

毎日新聞 2025/08/23

2025:7./ 121p
978-4-910207-61-2
¥990〔税込〕

賽の河原～供養の宗教学～(ちくま新書　1866)

村上 晶 著

筑摩書房

亡くなった子どもの行先として独自に考えられた「賽の河原」。10 年以上にわたって、津軽地方の「シャーマン」たちの調査をしてきた著者が、「和製の地獄」とも言われる賽の河原を中心に、日本の供養を考える。

毎日新聞 2025/08/23、産経新聞 2025/08/31

2025:7./ 256p
978-4-480-07698-4
¥1,012〔税込〕